令和２年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

三度山遺跡　（第３地点）
大畑遺跡　（第６地点）
安養寺遺跡
古井戸後遺跡　（第４地点）
向新田遺跡　（第４地点）

２０２２

印 西 市 教 育 委 員 会

例　言

1．本書は、令和２年度国庫補助を受けて実施した、三度山遺跡（第３地点）、大畑遺跡（第６地点）、安養寺遺跡、古井戸後遺跡（第４地点）、向新田遺跡（第４地点）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は印西市教育委員会が令和２年度に実施し、整理作業と原稿執筆は印西市より委託を受けた公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。

3．調査組織は以下のとおりである。

●発掘調査（令和２年度）

調査主体者	大木　弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	鈴木　圭一	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
	唐澤　千晶	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	木村　崇史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査

●整理作業・原稿執筆（令和３年度）

調査主体者	大木　弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	鈴木　圭一	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
	石川美智代	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	木村　崇史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	根本　岳史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任学芸員
	松本　実久	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主事
調査受託者	茅野　達也	公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事
整理担当者	喜多　裕明	公益財団法人印旛郡市文化財センター庶務課長兼調査課主幹

4．（１）遺跡の所在地、（２）調査の種別、調査面積、調査期間、（３）調査担当者、（４）調査に至る経緯は、以下のとおりである。

三度山遺跡（第３地点）（センターコード：09-151）

（１）印西市竜腹寺字笹持550番21（２）確認調査　上層55㎡／497.05㎡　令和２年４月３日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

大畑遺跡（第６地点）（センターコード：09-152）

（１）印西市大森字前畑2002番（２）確認調査　上層23.60㎡／338.42㎡　令和２年６月25日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

安養寺遺跡（センターコード：09-153）

（１）印西市武西字台171･173番（２）確認調査　上層853㎡／7,992㎡　令和２年８月４日～８月17日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）太陽光発電設備設置に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

古井戸後遺跡（第４地点確認調査）（センターコード：09-154）

（１）印西市平賀字古井戸原958番1（２）確認調査　上層34.24㎡／335.0㎡　令和２年９月11日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財

の取扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

古井戸後遺跡（第４地点本調査）（センターコード：09-155）

（１）印西市平賀字古井戸原958番1（２）本調査　上層28.65㎡　令和２年９月28日～10月１日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）確認調査の結果を受けて、遺構に影響を及ぼす範囲について本調査を行い記録保存した。

向新田遺跡（第４地点）（センターコード：09-156）

（１）印西市武西字向新田221-1ほか（２）確認調査　上層362.7㎡／3,100㎡　令和３年１月14日～１月20日（３）鈴木圭一　木村崇史（４）更地整備に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

5．整理作業、報告書原稿並びに印刷製本は、令和３年度国庫補助事業及び県費補助事業として実施した。

6．本書は、喜多が執筆及び編集を行った。また、挿図、写真図版のデジタル処理は調査補助員　露木聡子が行った。

7．本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は有限会社スギハラが撮影した。

8．調査原図、遺物実測図、写真、出土遺物は、印西市教育委員会が保管している。

9．発掘調査から報告書刊行まで、文化庁、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導を受けた。

凡　　例

1．第１図（1/50,000）は国土地理院発行の地形図（1/25,000）を縮小し、『白井』・『小林』・『佐倉』・『成田』を連結して使用した。第２、３、４、５、６図の地形図は、各地形図を1/25,000のスケールで使用した。第７、10、12、16、22図は『印西市都市計画図（1/2,500）を使用した。

2．掲載図面及び遺物の縮尺は、各挿図中に示した。

3．挿図中の方位は磁北を示す。

4．トレンチ脇の負数は、現地表面から遺構確認面までの深さ（単位：cm）示す。

5．表中の（　）は残存値、〈　〉は推定値を示している。

6．第１章「周辺の遺跡」の第５・６図に係る記載は、筆者が公益財団法人印旛郡市文化財センター報告書第375集『榎台第１遺跡』の作成に関わっていたので、掲載文章の一部を抜粋、加筆のうえ使用した。また、本書の第５・６図及び第４表も修正のうえ再掲した。

7．挿図中のスクリーントーンの用例は以下の通りである。

縄文時代住居　奈良・平安時代住居　溝状遺構　近世土坑

内外面黒色処理

本文目次

第１章　周辺の遺跡…… 1
第２章　三度山遺跡（第３地点）…… 13
　第１節　遺跡の立地…… 13
　第２節　調査の方法…… 13
　第３節　検出した遺構と遺物…… 13
第３章　大畑遺跡（第６地点）…… 14
　第１節　遺跡の立地…… 14
　第２節　調査の方法…… 14
　第３節　検出した遺構と遺物…… 14
第４章　安養寺遺跡…… 16
　第１節　遺跡の立地…… 16
　第２節　調査の方法…… 16
　第３節　検出した遺構と遺物…… 16
第５章　古井戸後遺跡（第４地点）…… 20
　第１節　遺跡の立地…… 20
　第２節　調査の方法…… 23
　第３節　検出した遺構と遺物…… 23
第６章　向新田遺跡（第４地点）…… 25
　第１節　遺跡の立地…… 25
　第２節　調査の方法…… 25
　第３節　検出した遺構と遺物…… 25
第７章　まとめ…… 29

挿図目次

第１図　周辺の遺跡（全体）…… 3
第２図　三度山遺跡周辺の遺跡…… 4
第３図　大畑遺跡周辺の遺跡…… 4
第４図　安養寺遺跡・向新田遺跡周辺の遺跡… 5
第５図　古井戸後遺跡周辺の遺跡…… 7
第６図　古井戸後遺跡周辺の古墳…… 8
第７図　三度山遺跡（第３地点）遺跡位置図… 13
第８図　三度山遺跡（第３地点）トレンチ配置図 …… 14
第９図　三度山遺跡（第３地点）出土遺物…… 14
第10図　大畑遺跡（第６地点）遺跡位置図…… 15
第11図　大畑遺跡（第６地点）トレンチ配置図　15
第12図　安養寺遺跡位置図…… 16
第13図　安養寺遺跡トレンチ配置図…… 17
第14図　安養寺遺跡出土遺物…… 18
第15図　安養寺遺跡遺物No.５展開図…… 19
第16図　古井戸後遺跡（第４地点）位置図…… 20
第17図　古井戸後遺跡（第４地点）確認調査範囲 …… 21
第18図　古井戸後遺跡（第４地点）本調査範囲　21
第19図　古井戸後遺跡（第４地点）１号住居跡　22
第20図　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物（１） …… 23
第21図　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物（２） …… 24
第22図　向新田遺跡（第４地点）遺跡位置図… 26
第23図　向新田遺跡（第４地点）トレンチ配置図 …… 27
第24図　向新田遺跡（第４地点）出土遺物…… 28

表　目　次

第１表　遺跡地名表（第２図関係）…… 9
第２表　遺跡地名表（第３図関係）…… 9
第３表　遺跡地名表（第４図関係）…… 10
第４表　遺跡地名表（第５・６図関係）…… 11
第５表　三度山遺跡（第３地点）出土遺物観察表 …… 14
第６表　安養寺遺跡出土遺物観察表…… 18
第７表　古井戸後遺跡（第４地点）１号住居跡観察表 …… 22
第８表　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物観察表 …… 24
第９表　向新田遺跡調査歴…… 25
第10表　向新田遺跡（第４地点）出土遺物観察表 …… 28

写真図版目次

図版１　**三度山遺跡（第３地点）**調査前風景（北西から）　１トレンチ（東から）　２トレンチ（西から）　３トレンチ（西から）　４トレンチ（北から）　５トレンチ（北から）　**大畑遺跡（第６地点）**　１トレンチ（西から）　２トレンチ（南から）

図版２　３トレンチ（北から）　埋め戻し後（南から）　**安養寺遺跡調査前風景（南から）**　調査前風景（西から）　調査前風景（北から）　調査前風景（東から）　１トレンチ（北西から）　２トレンチ（南から）

図版３　３トレンチ（東から）　４トレンチ（南東から）　５トレンチ（南東から）　６トレンチ（南東から）　７トレンチ（南東から）　８トレンチ（南東から）　９トレンチ（南東から）　10トレンチ（西から）

図版４　11トレンチ（北東から）　12トレンチ（東から）　13トレンチ（東から）　14トレンチ（南西から）　14トレンチ（北東から）　14トレンチ接写（北東から）　15トレンチ（南東から）　16トレンチ（南東から）

図版５　16トレンチ(接写)　17トレンチ(南東から)　18トレンチ(南西から)　19トレンチ(南東から)　20トレンチ(南東から)　21トレンチ(南東から)　22トレンチ(北から)　22トレンチ(南から)

図版６　23トレンチ（南東から）　溝の一部掘削（１）　溝の一部掘削（２）　**古井戸後遺跡（第４地点）**確認調査 調査前風景（西から）　１トレンチ（１号住居跡）（西から）　１トレンチ（１号住居跡）（南から）　１トレンチ（１号住居跡）遺物出土状況（北から）　２トレンチ（東から）

図版７　３トレンチ（西から）　**古井戸後遺跡（第４地点）**本調査 調査前風景（南東から）　１号住居跡検出状況（南西から）　１号住居跡遺物出土状況（北東から）　１号住居跡土層堆積及び遺物出土状況（南東から）　１号住居跡遺物出土状況接写（東から）　１号住居跡完掘状況（北西から）　１号住居跡完掘状況（東から）

図版８　１号住居内P１接写　**向新田遺跡（第４地点）**調査前風景（北西から）　１トレンチ（西から）　１トレンチ遺構検出状況（北から）　２トレンチ（西から）　３トレンチ（西から）　４トレンチ（西から）　５トレンチ（西から）

図版９　６トレンチ(西から)　６トレンチ遺構検出状況(拡張)(西から)　６トレンチ遺物出土状況(１)　６トレンチ遺物出土状況(２)　７トレンチ(西から)　８トレンチ(西から)　８トレンチ(東から)　９トレンチ（西から）

図版10　三度山遺跡（第３地点）・安養寺遺跡出土遺物

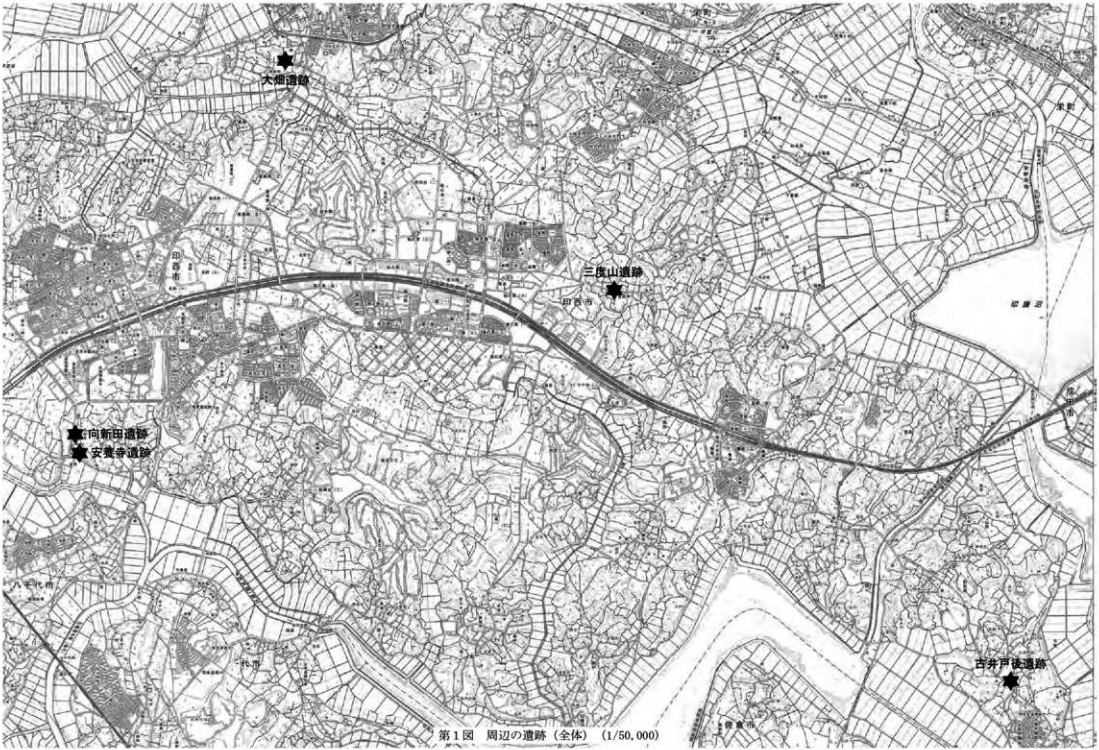
図版11　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物

図版12　向新田遺跡（第４地点）出土遺物

第１章　周辺の遺跡

令和２年度は、５ヵ所の遺跡を対象に調査を実施した（第１図）。範囲が広範に及ぶため、周辺の遺跡の詳細は第２図から第５図に分けた。まず、第２図は三**度山遺跡**周辺を示した（第２図－１）。本遺跡は、縄文時代早期の包蔵地として捉えられている。最初の調査は、旧本埜村道の道路改良工事に伴い平成４年に実施された（第１地点）。調査の結果、縄文時代の炉穴１基、近世土坑３基、柵状遺構１条、溝状遺構１条が検出した。遺物は、炉穴関連で縄文時代早期条痕文系の野島式、茅山下層式、子母口式土器が出土している。また、遺構外においては、中期後半の加曽利Ｅ式、後期後半の加曽利Ｂ式の出土をみている。平成17年度には第２地点、それ以降にも第３地点の調査を旧本埜村教育委員会で実施しているが、残念ながら調査地点の把握のみで詳細は不明である。また、その他にも試掘を実施しているようだが、その詳細も不明である。周辺の遺跡では、千葉県文化財センターがニュータウン関係で調査を行った事例がある。三度山遺跡との関連では、**五斗蒔遺跡**（第２図－２）で住居跡と炉穴の検出のほか、早期撚糸文系、条痕文系、沈線文系、前期竹管文系や後期の土器が出土している。同様の遺跡では**式ト込遺跡**（第２図－３）、**荒ク遺跡**（第２図－４）、**角田台遺跡**（第２図－５）、**雨古瀬遺跡**（第２図６）でも炉穴、土坑、陥穴が検出し、早期、前期の遺物が出土している。なかでも井草式直前の様相を示す土器が出土しており注意される。**天王前遺跡**（第２図－７）では、第２次調査で田戸下層式期の住居跡が検出しており、該期の事例が少ないなか注目される。**龍腹寺１号塚**（第２図－８）は、中・近世に属する遺構であるが、盛土中から早期条痕文系土器を主体とし、後期の土器も含む出土がみられた。塚下から遺構の検出はなかったものの、周辺に該期の関連が存在する可能性は高い。旧本埜村の調査事例は少ないが、総じて旧石器時代や縄文時代後期の遺跡は多い。三度山遺跡周辺を含む広範の地域での展開が予想される。第３図は**大畑遺跡**（第３図－１）周辺の詳細を示した。本遺跡は縄文時代中期及び後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の包蔵地として捉えられている。平成14年度に印西市教育委員会により第１地点の確認調査を行い、15年度に本調査を行った。調査の結果、縄文時代中期の住居跡１軒、９世紀前半の住居跡１軒のほか、奈良・平安時代に帰属する土坑２基、掘立柱建物跡の柱穴が検出した。第２地点は平成17年度に実施され、奈良・平安時代の住居跡２軒、土坑２基が検出している。第３地点は平成26年度に実施した。奈良・平安時代の土坑５基、中・近世土坑１基の検出をみている。第４地点は平成27年度に行い、遺構等は検出しなかった。第５地点は平成28年度に実施した。調査区全域がトレンチャーによる撹乱の影響を受けたことは考慮しなければならないが、遺構等は検出しなかった。因みに出土遺物も縄文時代中期の加曽利Ｅ式の小片と近世の擂鉢のみであった。大畑遺跡自体は、現地踏査でも容易に土器片が採集できる場所として以前から知られていた。近隣の同一台地上では、貝化石を用いた横穴式石室を有する市指定史跡の**上宿古墳**（第３図－６）や同様に横穴式石室をもつ円墳である**森内古墳**（第３図－８）、**後庵山古墳**（第３図－９）や前方後円墳で横穴式石室の**大森古墳**（第３図－７）が所在し、古墳時代終末期の古墳が点在する地域でもある。他にも大畑遺跡と同一台地上の東側には縄文時代から奈良・平安時代と印西市内で最も時間軸が長い**天神台遺跡**（第３図－２）、古代寺院址である**木下別所廃寺**（第３図－５）やそれに瓦を提供した**曽谷ノ窪瓦窯跡**（第３図－４）、また天神台遺跡に農機具等の鉄製品を供給したと考えられる**曽谷ノ窪遺跡**（第３図－３）が所在する。**式ト込遺跡**（第２図－３）は、先の第２図の関連では縄文時代早期の遺構、遺物が検出するとして取り上げたが、弥生時代から奈良・平安時代の住居跡19軒を検出している。最後に縄文時代としては、**角田台遺跡**（第２図－５）で縄文時代早期から前期の住居跡が４軒検出している。以上により大畑遺跡周辺は、分布する遺跡の内容から原始・古代の遺跡が立地するのに好条件を有している地域と考えられる。第４図は**安養寺遺跡**（第４図－１）、**向新田遺跡**（第４図－２）周辺の詳細を示

した。安養寺遺跡は、同一台地上に位置する向新田遺跡の南側の台地にあたる。安養寺遺跡は、縄文時代中期及び弥生時代の包蔵地、向新田遺跡は、縄文時代前期、弥生時代、古墳時代、平安、近世の集落跡及び牧として捉えられている。安養寺遺跡は過年度においても調査例がなく、今回が初の調査となった。向新田遺跡は千葉県文化財センターと印西市で多数の調査例があり、詳細は第９表に表記した。調査面積の関係で遺構検出数に差はあるが、旧石器時代から古墳時代前期、奈良・平安時代、中近世にわたる複合遺跡と考えられる。本書では、県文化財センターの調査は概略に留め、印西市の過年度調査経過について触れる。第１地点は平成６年度に調査が行われた。調査の結果、縄文時代は遺構の検出はなかったものの早期から後期の土器と石鏃、打製石斧、敲石、磨石等の石製品が出土した。第２地点は平成13年度に調査され、縄文時代早期後半の住居跡１軒、炉穴１基、土坑２基が検出、土器は早期から中期の縄文土器が出土した。弥生時代は後期の住居跡１軒が検出し、遺物は該期の土器が出土している。奈良・平安時代及び中近世については遺構の検出はなかったものの該期の遺物は少量出土した。第３地点は平成22年度に確認・本調査を実施した。縄文時代は陥穴１基を検出し、遺物は中期の土器と石鏃が出土した。古墳時代は前期の住居跡が５軒、土坑11基が検出した。遺物は該期の土器等は出土している。近世は遺構の検出がなかったが、寛永通宝１点の出土がみられた。続いて周辺の遺跡を時代ごとに俯瞰する。縄文時代の遺構等は**船尾白幡遺跡**（第４図－３）で早期の炉穴が、一**木桜南遺跡**（第４図－７）で早期の住居跡、炉穴、陥穴が検出したほか、石鏃石器製作跡が認められるなど注目される。**高根北遺跡**（第４図－８）でも炉穴と小竪穴が検出している。**武西千駄苅遺跡**（第４図－13）では、前期関山式土器が多量に出土した。**木曽地遺跡**（第４図－20）では、中期後半の住居跡１軒、土坑１基が検出している。他にも**瓜ヶ作遺跡**（第４図－９）では早期の炉穴が100基以上検出しており、該期の拠点的集落であった可能性があり重要な位置を占めている。**榎峠遺跡**（第４図－６）では縄文時代草創期の押圧縄文土器、爪形文土器が出土しており、周辺の該期の遺跡の中でも成立が一段階古い。初源的位置づけが可能であり注目に値する。以上のほかにも周辺では縄文時代の遺跡が非常に多い。特に向新田遺跡の北側では該期の遺跡が集中している状況が分かる。これらの遺跡が所在する台地は、地形的に武西付近から北に向かって進入する小支谷に挟まれた状況を呈しているが、水系として新川、神崎川によって開析された立地環境が強く影響している。したがって神崎川に面した台地上にも該期の遺跡が数多くみられる。八千代市側では**作山遺跡**（第４図－26）の台地上で縄文中期から晩期を中心とした遺跡の所在が認められる。**道地遺跡**（第４図－17）では早期条痕文系土器の包含層及び貝塚が所在する。翻って印西市の**西根遺跡**（第４図－27）は低地の遺跡であるが、加曽利Ｂ式、後期安行式を主体する多量の遺物や木製品などが出土している。総じて、神崎川に面した台地には縄文時代の中でも後期が多く、戸神川上流部は早期撚糸文や条痕文期の土器が多く出土する傾向がある。**南西ヶ作遺跡**（第４図－28）や一**本桜南遺跡**（第４図－７）もそのような位置づけが可能な遺跡である。次に奈良･平安時代では**鳴神山遺跡**（第４図－10）と隣接する**白井谷奥遺跡**（第４図－10）で230軒の住居跡、40棟の掘立柱建物跡、村落内寺院のほか出土遺物のなかでも墨書、刻書も県内随一を誇る当該期の拠点的集落として捉えられる。**大塚前遺跡**（第４図－11）は宝相蓮華文軒丸瓦・平瓦を使用した四面庇掘立柱建物跡が認められ伽藍配置をもたない草堂的な寺院址と考えられている。**北ノ台遺跡**（第４図－12）は住居内から該期の土製人形や土製品が出土し、祭祀的な様相をもつ遺跡として注意される。他にも調査面積での制約はあるが、**武西千駄苅遺跡**（第４図－13）、**船尾白幡遺跡**（第４図－３）、**木苅峠遺跡**（第４図－15）、**清戸Ⅰ遺跡**（第４図－５）、**子の神台遺跡**（第４図－16）、**道地遺跡**（第４図－17）、**松原遺跡**（第４図－18）、**真木野遺跡**（第４図－19）では住居跡、掘立柱建物跡、方形周溝状遺構が散見される。第５図は、**古井戸後遺跡**（第５図－１）周辺の詳細を示した。本遺跡は古墳時代、平安時代を主体とする包



第１図　周辺の遺跡（全体）（1/50,000）

第２図　三度山遺跡周辺の遺跡（1/25,000）

第３図　大畑遺跡周辺の遺跡（1/25,000）

蔵地して捉えられている。周知の遺跡として以前から認識されていたが、調査例は以外に小規模で多くない。第１地点は平成24年度に実施され、確認調査で奈良・平安時代の住居９軒、土坑１基が検出した。本調査は、このうち新たに確認された住居２軒及び追加で検出した土坑１基を加え、住居４軒、土坑２基を対象として実施された。調査の結果、１号住居跡は８世紀後半、２号住居跡は７世紀末から８世紀初頭、３、４号住居跡は８世紀第１四半期に帰属することが判明した。土坑も該期の所産である。第２地点は、平成27年度に実

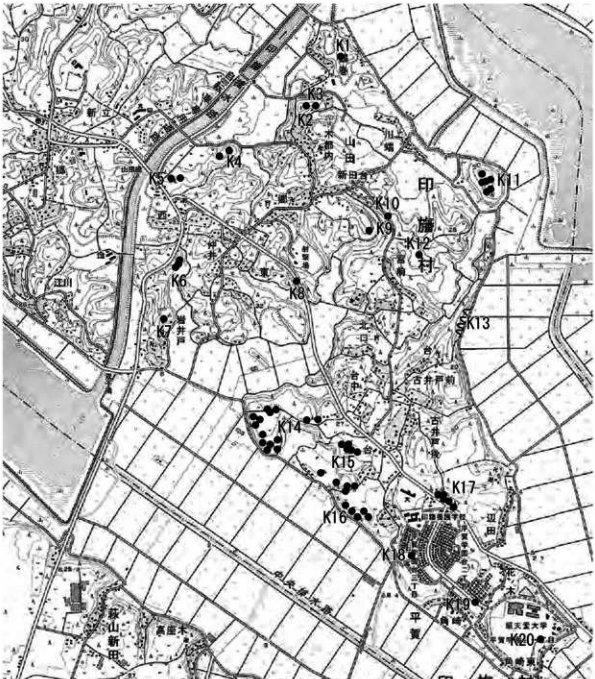
第４図　安養寺遺跡・向新田遺跡周辺の遺跡（1/25,000）

施した。遺構は検出せず、奈良・平安時代の所産と思われる土錘と刀子が出土した。第３地点も平成27年度

に行い、８世紀後半に帰属される住居跡１軒が検出した。遺物は土師器甕や墨書を含む坏のほか、近世の焙烙、陶磁器等が出土している。続いて周辺の遺跡を俯瞰する。本遺跡が所在する台地は平賀地区に該当するが、西側に位置する印旛捷水路を境にして東側に半島状に突出した台地上に位置する。同一台地上には山田地区が隣接し、両地区とも極めて多くの遺跡が存在することで知られている。地形は縄文海進の際に周辺の台地を激しく浸食した結果、複雑な樹枝状に開析された。第５図は、山田・平賀地区の同一台地上に絞り、本遺跡と同様の遺跡を地図にプロットしてみたが、ほぼ、全域に該期の遺跡が濃密に展開していた状況が窺える。特に山田地区及び平賀地区は、古墳から奈良・平安時代に帰属する遺跡が最も多い。最初に山田地区から記載する。**光明寺遺跡**（第５図－35）では古墳時代の住居跡４軒、土坑４基が検出している。**山田虎ノ作遺跡**（第５図－21）は、奈良・平安時代の住居跡が15軒、土坑22基が検出している。特筆すべきは住居跡から出土した土師器坏や皿に記された「吉」の墨書である。これにより、本地域が倭名類聚抄における「吉高郷」であることが指摘されている。**打手第２遺跡**（第５図－22）では、古墳時代の住居跡10軒、奈良・平安時代の住居跡11軒が検出している。また、遺構外で金銅製耳環が１点出土した。**山田諏訪遺跡**（第５図－25）では、古墳時代の土坑２基、平安時代の住居跡４軒が検出した。続いて、平賀地区について記載する。**平賀細町遺跡**（第５図－37）の調査は平成７年度に行われた。重複を伴う古墳時代後期の住居跡が42軒、奈良・平安時代の住居跡22軒、掘立柱建物跡５棟等が検出した。なかでも46号住居Ａから飛鳥Ⅲ期に相当する畿内産土師器（７世紀前半）や１号住居から東海産の長頸瓶（７世紀前半から中頃）が出土するなど、当該期の最盛期の遺物が充実している。また、43号住居からは皇朝十二銭のひとつである「富寿神寶」（初鋳818年）が出土し、同住居出土の遺物にも具体的な年代を与えるなど貴重な成果が得られている。同遺跡近隣では、平成17年度に**細町・天神遺跡**（第５図－38）の調査が行われ、古墳時代後期の住居跡11軒、掘立柱建物跡１棟、奈良・平安時代の住居跡６軒、古墳時代から奈良・平安時代の土坑18基が検出した。**平賀惣行遺跡**（第５図－45）では、奈良・平安時代の住居跡16軒、土坑20基が検出した。**油作第２遺跡**（第５図－49）は、昭和57年度に宅地造成工事に先立って調査が行われ、古墳時代中期の住居跡１軒、古墳時代後期の住居跡94軒、奈良・平安時代の住居跡50軒、これらの時代に帰属する掘立柱建物跡50棟、平安時代の土坑１基、時期不明13基、溝５条と平賀地区の古代の集落において一大拠点の様相を示している。対して同事業で調査した**一ノ台遺跡**（第５図－52）、**仲ノ台遺跡**（第５図－51）では、古代の住居跡の検出のうち、後期に帰属する遺構が極端に少ない。一ノ台遺跡では古墳時代前期の住居跡７軒、中期の住居跡23軒、後期の住居跡１軒である。仲ノ台遺跡は、古墳時代中期の住居跡９軒であり、後期の住居跡は検出していない。この同一台地上での住居内容の差は、時期による集落の変遷と捉えられる。次に近隣の**油作第１遺跡**（第５図－47）は、２次にわたって調査が行われている。第１次調査は学校建設に先立って行われ、古墳時代後期の住居跡42軒、奈良・平安時代の住居跡９軒が検出した。第２次は同小学校運動場拡張に伴う調査で、古墳時代後期の住居跡12軒、奈良・平安時代の住居跡２軒、古墳時代後期の掘立柱建物跡４棟、奈良・平安時代の溝２条が検出した。**榎台第２遺跡**（第５図－48）は調査事例がない。土師器、須恵器の散布がみられ、古墳時代から奈良・平安時代の包蔵地と捉えられている。さらに、**榎台第１遺跡**（第５図－2）は平成19年度に発掘調査が実施された。古墳時代後期の住居跡２軒、土坑１基、溝２条が検出している。また、急傾斜崩壊対策事業に先立って、平成27年度から平成30年度にかけて台地縁辺部の調査が行なわれ、縄文時代早期3軒、古墳時代後期44軒、奈良・平安時代1軒の住居跡の検出をみている。以上が集落跡と捉えられる遺跡の分布である。

次に古墳と塚の分布をみてみる（第６図）。山田、平賀地区は古墳時代後期の集落に付随して、古墳の数も多い。因みに図中では、各マウンドの調査が全て行われているわけではないため、便宜的に古墳も塚も一

印
旛
村
平
賀
角崎
屠
宅
新
田
高
津
木
山
田
川
端
新
立
塩
山
田
井
戸
古
井
戸
新
井
戸
中
井
戸
新
井
戸
JR
成
田
線
成
田
空
港
線
成
田
空
港
高
速
鉄
道
成
田
空
港
高
速
鉄
道
成
田
空
港
高
速
鉄
道



第６図　古井戸後遺跡周辺の古墳（1/25,000）

成される。15号墳と17号墳が前方後円墳で他は円墳である。**古井戸原古墳群**（K16）は、６基の古墳で構成される。昭和35年に千葉県教育委員会により、２号墳から５号墳の調査が行われている。２号墳は前方後円墳で主軸長40mを測り、周辺の古墳群と比較してもトップクラスの大きさを誇っている。円筒、人物、馬形埴輪が出土し、下総型埴輪に包括される６世紀後半に捉えられている。主体部は未発見だが、墳丘裾部に存在する可能性が指摘されている。３号墳、５号墳は円墳。墳丘の半分を除去し、構築は盛土であることが確認された。４号墳は主軸長30mの前方後円墳。墳丘南側に主体部を確認し、雲母片岩を使用した箱式石棺であることが判明したが、盗掘のため遺物は少量のみであった。１号墳は円墳。６号墳は方墳だが、塚と考えられている。**山ノ下古墳群**（K15）は13基で構成されていたが、10基は消滅していた。13号墳の円墳は調査

を行なったが、出土遺物、主体部は検出しなかった。昭和62年に土採取事業に伴って、円墳である10号墳も調査を行なった。墳丘は削平の影響を受けたためか、やはり主体部は検出しなかった。平賀遺跡群では、**一ノ台遺跡**（第５図－52）に前方後円墳である**平賀勝負古墳**（K20）（主軸長20m）、**仲ノ台遺跡**（第５図－51）では同規模の前方後円墳である**仲ノ台古墳**（K19）、**駒込遺跡**（第５図－50）では主軸長31mの前方後円墳、**平賀駒込古墳**（K18）がそれぞれ所在している。因みに**榎台第１遺跡**（第５図－2）の近隣にも**榎台古墳群**（K17）が所在するが、道路沿いに位置しており、近世の塚と考えられている。仮にこれが年代的に確定されるのであれば、榎台第１遺跡周辺は古墳が存在しない空白地帯と言える。各遺跡とも独立丘状を呈している場所に、各々前方後円墳が位置している点から盟主的な古墳であると考えられる。山田地区と比して、平賀地区はより明確に前方後円墳＋円墳という構成内容が捉えやすい。円墳は首長的な前方後円墳に対して陪塚としての位置付けになるであろう。また、周辺に展開する古墳時代後期の集落は、その築造に関わった集団と捉えることができる。

第１表 遺跡地名表（第２図関係）

№（遺跡分布地図）	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要			
				時代（時期）等	遺構・遺物等		水系
第2図－1	三度山遺跡	本 書 参 照					
第2図－2	五斗蒔遺跡	印西市竜腹寺字俥持	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早・前・中・後・晩）	住居跡、陥穴、土坑、炉穴、ナイフ形石器、スクレイパー、マイクロブレード、縄文土器（夏島・田戸上層・鵜ヶ島台・茅山・諸磯・浮島・加曽利E・堀之内・安行・千網）		印旛沼
第2図－3	汐ト込遺跡	印西市角田字汐ト込	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（前・中）、弥生、古墳、奈良・平安	炉穴、掘立柱建物跡、縄文土器（前期・加曽利E）、弥生土器、土師器、須恵器、石刀		師戸川
第2図－4	鬼ケ瀬遺跡	印西市角田字鬼ケ	包蔵地	旧石器、縄文	陥穴、縄文土器（前期）、ナイフ形石器、剥片		師戸川
第2図－5	角田台遺跡	印西市角田字関所	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早・前）、奈良・平安、中・近世	住居跡、炉跡、土坑、溝、ナイフ形石器、磨製石斧、石刀、剥片、縄文土器（条痕文・諸磯）、弥生土器、土師器、須恵器		師戸川
第2図－6	前古瀬遺跡	印西市角田字前古瀬	包蔵地	旧石器、縄文（早・前）	屋外炉址土坑、ナイフ形石器、スクレイパー、尖頭器、縄文土器（井草・夏島・田戸・茅山・浮島）		師戸川
第2図－7	天王前遺跡	印西市中根字下谷	集落跡	縄文、弥生、古墳（後）、中世			印旛沼
第2図－8	龍腹寺１号塚	印西市中根字大山	塚	中・近世	塚（不整円形）、縄文土器（早期条痕文・秋名寺）、石器（石鏃・打製石斧・磨石・敲石）		印旛沼

第２表　遺跡地名表（第３図関係）

№（遺跡分布地図）	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要			
				時代（時期）等	遺構・遺物等		水系
第3図－1	大畑遺跡	本 書 参 照					
第3図－2	天神台遺跡	印西市大森字大畑	貝塚 集落跡	縄文、弥生、古墳、奈良・平安	地点貝塚、住居跡、土坑、炉址、掘立柱建物跡、縄文土器（田戸・加曽利E・堀之内・加曽利B・安行）、弥生土器、土師器、須恵器、鉄器、銅鏡品、土錘		亀成川
第3図－3	曽谷ノ窪遺跡	印西市大森字曽谷ノ窪	包蔵地	縄文、奈良・平安	炉穴、住居、鍛冶炉、溝、縄文土器（早期沈線文・加曽利B・後期安行）、土師器、須恵器、石製模造品、鍛冶関連遺物（鉄滓・鉄塊未成品・環状鉄製・羽口）		利根川
第3図－4	曽谷ノ窪瓦窯跡	印西市大森字曽谷ノ窪	包蔵地	奈良	瓦窯跡、炭窯跡、古瓦、須恵器		亀成川
第3図－5	本下別所廃寺	印西市別所字石神台	寺院跡	飛鳥、奈良・平安	基壇、古瓦		亀成川
第3図－6	上宿古墳	印西市大森字上宿	古墳	古墳	方墳？横穴式石室、須恵器、鉄器、人骨		亀成川
第3図－7	大森古墳	印西市大森字前畑	古墳	古墳	前方後円墳、横穴式石室		亀成川
第3図－8	森内古墳	印西市大森字森内	古墳	古墳	円墳15m、横穴式石室		亀成川
第3図－9	後地山古墳	印西市大森字後地	古墳	古墳	円墳２基		亀成川

第３表　遺跡地名表（第４図関係）

No.(遺跡分布地図)	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要		
				時代（時期）等	遺構・遺物等	水系
第4図－1	安養寺遺跡	本　書　参　照				
第4図－2	向新田遺跡	本　書　参　照				
第4図－3	船尾白幡遺跡	印西市船尾字白幡	包蔵地 集落跡	旧石器,縄文（早・前・後）,弥生（後期）,古墳（後期）,平安	住居跡、土坑、細石器、ナイフ形石器,縄文土器（井草・田戸上層・茅山・浮島・興津・加曽利B）、弥生土器、土師器	神崎川
第4図－4	船尾町田遺跡	印西市船尾字町田	集落跡 古墳	縄文（中・後）、弥生（後期）、古墳（前・中）	住居跡、前方後円墳、円墳、縄文土器（加曽利E・称名寺）、弥生土器、土師器	神崎川
第4図－5	清戸Ⅰ遺跡	白井市清戸字大崎・越屋敷	包蔵地	縄文、古墳、奈良・平安	縄文土器、土師器	神崎川
第4図－6	桜畔遺跡	印西市浦幡新田字桜畔	包蔵地	縄文（早・前）	縄文土器（井草・夏島・田戸・浮島・興津）	浦部川
第4図－7	一本桜南遺跡	印西市木苗	包蔵地	縄文（早）	住居跡、小壁穴、炉穴、縄文土器（撚糸文・条痕文・沈線文）、スクレイパー、ナイフ形石器、ガラス玉	神崎川
第4図－8	高根北遺跡	印西市小倉字大塚前	包蔵地	旧石器、縄文（早・前）、平安	ナイフ、ポイント、縄文土器（夏島・田戸・茅山・浮島）、土師器	浦部川
第4図－9	瓜ヶ作遺跡	八千代市真木野字瓜ヶ作	包蔵地	縄文（早・前）,弥生、奈良・平安	住居跡、炉穴、縄文土器	神崎川
第4図－10	鳴神山遺跡 白井谷奥遺跡	印西市戸神字大野	包蔵地 集落跡	旧石器、奈良・平安	住居跡、土坑墓、掘立柱建物跡、土師器、須恵器、灰釉、緑釉	神崎川
第4図－11	大塚前遺跡	印西市小倉字小倉台	寺院跡	平安	住居跡、掘立柱建物跡、古瓦、瓦塔	神崎川
第4図－12	北ノ台遺跡	印西市武西字北ノ台	包蔵地	縄文	縄文土器、土師器	亀成川
第4図－13	武西千鳥苗遺跡	印西市武西字千鳥苗	包蔵地	縄文、弥生、古墳、奈良・平安	住居跡、方形周溝状遺構、掘立柱建物跡、土坑、縄文土器（前・中・後）、弥生土器（後期）、刷毛目櫛模造品、土師器、須恵器	神崎川
第4図－14	向ノ地遺跡	印西市船尾字向ノ地	包蔵地	弥生、古墳	住居跡、土坑、溝、旧石器、弥生土器、土師器、陶製品、鉄製品、古銭	新川
第4図－15	木苗岭遺跡	印西市浦幡新田字木苗岭	包蔵地	旧石器,縄文（前・中・後）、平安	ナイフ形石器、尖頭器、削器、細石器、縄文土器（関山・興津・加曽利E・称名寺・堀之内）、土師器	手賀沼
第4図－16	子の神台遺跡	八千代市佐山字子の神台	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早・前・中・後）、弥生（後期）、古墳（前・後）、奈良・平安	ナイフ形石器、住居跡、溝、縄文土器（条痕文系・浮島・加曽利E・称名寺・堀之内）、弥生土器、土師器、須恵器	神崎川
第4図－17	道地遺跡	八千代市平戸字道地	集落跡	縄文（早・後）,弥生（後）,古墳（前・中）	住居跡,縄文土器（茅山・加曽利E・称名寺）,弥生土器,土師器、石、鉄製品	新川
第4図－18	松原遺跡	八千代市真木野字松原	包蔵地 集落跡	旧石器,縄文（前・中・後）,弥生、古墳（後）、奈良・平安	住居跡、削器、縄文土器（浮島・阿玉台・勝坂・加曽利E・称名寺・堀之内）、弥生土器、土師器、石器、黒曜石	神崎川
第4図－19	真木野遺跡	八千代市真木野字台	包蔵地	縄文（前・中・後）、古墳（後）	縄文土器（浮島・阿玉台・勝坂・称名寺・堀之内）、土師器	神崎川
第4図－20	本曽地遺跡	白井市谷田田字本曽地	包蔵地 集落跡	旧石器,縄文、弥生,古墳,奈良・平安、中・近世	住居跡、塚、堀、溝、石器、縄文土器、弥生土器、土師器、鉄製品、土玉、石製品（管玉）	神崎川
第4図－21	岡辺穴遺跡	八千代市高田台字岡辺穴	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早～後）、弥生,古墳（前・後）,奈良・平安、中世	住居跡、土坑墓、溝、石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器	新川
第4図－22	栗谷遺跡	八千代市保品字栗谷	集落跡	縄文、弥生、古墳（前・中・後）、奈良・平安	住居跡、方形周溝墓、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器	印旛沼
第4図－23	逆水遺跡	八千代市米本字逆水	集落跡	縄文（早～後）、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世	縄文土器（茅山・加曽利E・加曽利B）、弥生土器、土師器	新川
第4図－24	向境遺跡	八千代市神野字向境	集落跡	縄文、弥生、奈良・平安	住居跡、溝、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒曜石	新川
第4図－25	境堀遺跡	八千代市神野字境堀	包蔵地	縄文、弥生、奈良・平安	住居跡、弥生土器、土師器、須恵器	印旛沼
第4図－26	作山遺跡	八千代市小池字作山	包蔵地	縄文（前・中）、古墳（前・中・後）、奈良・平安	縄文土器（浮島・加曽利E）、土師器	神崎川
第4図－27	西根遺跡	印西市船尾字西根	包蔵地	縄文（後期）	縄文土器（加曽利B・安行）、土師器、須恵器、木製品	神崎川
第4図－28	南西ヶ作遺跡	印西市泉字南西ヶ作	包蔵地	旧石器,縄文（早・中・後・晩）,	ナイフ形石器、縄文土器（井草・夏島・茅山・加曽利E・加曽利B・安行）、	神崎川

第４表　遺跡地名表（第５・６図関係）

集落跡

№(遺跡分布地図)	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要			
				時代（時期）等	遺構・遺物等	水系	
		千葉県印西市					
第5図－1	古井戸後遺跡	本　書　参　照					
第5図－2	榎台第1遺跡	平賀榎台	集落跡	縄文、古墳、奈良・平安、中・近世	住居跡（縄文時代・古墳時代）、土坑、陥穴、溝、近世礎石建物跡、近世集石遺構		印旛沼
第5図－3	荒生遺跡	山田荒生1425他	包蔵地	縄文、古墳、奈良・平安	縄文土器、黒曜石チップ、土師器		印旛沼
第5図－4	市ノ坪遺跡	山田市ノ坪1397他	包蔵地	縄文（早期・前期）、古墳、奈良・平安	縄文土器（茅山・浮島）、土師器、土錘		印旛沼
第5図－5	稲荷前第1遺跡	山田稲荷前1676他	包蔵地	縄文、弥生（後期）、古墳、奈良・平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－6	稲荷前第2遺跡	山田稲荷前1689～1716他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須輪		印旛沼
第5図－7	市井遺跡	山田市井1736～1741他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－8	上鳩巻第1遺跡	山田上鳩巻600他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須輪		印旛沼
第5図－9	上鳩巻第2遺跡	山田上鳩巻958他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－10	門前台第1遺跡	山田門前台895他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－11	日影遺跡	山田日影886他	包蔵地	古墳（後期）、奈良・平安	土師器、須恵器、土錘		印旛沼
第5図－12	門前台第2遺跡	山田門前台797他	包蔵地	弥生（後期）、古墳、奈良・平安	弥生土器、土師器		印旛沼
第5図－13	久第台第2遺跡	山田久第台837他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器		印旛沼
第5図－14	殿司遺跡	山田殿司805他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－15	釜田遺跡	山田釜田334他	包蔵地	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	縄文土器（茅山）、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－16	新田台遺跡	山田新田台293他	包蔵地	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－17	蔦谷津遺跡	山田蔦谷津260・261他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器		印旛沼
第5図－18	郷遺跡	山田郷200～206他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器、土錘		印旛沼
第5図－19	久第台第1遺跡	山田久第台817～824	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、土錘		印旛沼
第5図－20	宮前遺跡	山田宮前93～114他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－21	山田虎ノ作遺跡	山田虎ノ作3340～3550他	集落跡	縄文、古墳（後期）、奈良・平安	住居（奈良・平安）、陥穴、土坑、土師器、須恵器、人骨		印旛沼
第5図－22	打手第2遺跡	山田打手3433～3434	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安	住居（古墳～奈良・平安）、掘立柱建物跡（中近世）、土坑墓（中近世）、溝（中近世）石器、縄文土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－23	打手第1遺跡	山田打手3435～3451	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－24	黒第2遺跡	山田黒3477～3596	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－25	山田西1783～1795他	山田西1783～1795他	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早期）、弥生、古墳、奈良・平安	住居（弥生・平安）、陥穴、土坑、地下式坑、溝、縄文土器（茅山）、弥生土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－26	黒第1遺跡	山田黒3512～3520	集落跡	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	住居、陥穴、縄文土器（茅山）、弥生土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－27	浅間山遺跡	山田浅間山1852他	包蔵地	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	縄文土器（野島・茅山）、土師器、土錘		印旛沼
第5図－28	谷々津遺跡	山田谷々津2772～2773他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－29	仲井第1遺跡	山田仲井2812～2864	包蔵地	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器		印旛沼
第5図－30	仲井第2遺跡	山田仲井2805他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－31	次郎松遺跡	山田次郎松2872他	包蔵地	縄文（早期）、古墳、奈良・平安	縄文土器（茅山）、土師器、須輪		印旛沼
第5図－32	東遺跡	山田東3239・3258他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－33	柳作遺跡	山田柳作3165他	包蔵地	弥生（後期）、古墳（後期）、奈良・平安	弥生土器、土師器		印旛沼
第5図－34	内野遺跡	山田内野317他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器		印旛沼
第5図－35	光明寺遺跡	山田光明寺149－1他	集落跡 塚	縄文、古墳、中近世	塚0.3m×2m。住居（古墳）、陥穴（縄文時代）、土坑（中近世）、縄文土器、土師器、カワラケ、石器		印旛沼
第5図－36	諫作遺跡	平賀諫作3005他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器		印旛沼
第5図－37	平賀細町遺跡	平賀細町2813他	集落跡	古墳、奈良・平安、中・近世	住居（古墳～奈良・平安）、土坑、地下式坑、火葬墓		印旛沼

No.(遺跡分布地図)	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要		
		千葉県印西市		時代（時期）等	遺構・遺物等	水系
第5図－38	鹿町・天神遺跡	平賀天神3015他	包蔵地	縄文（早）、弥生（後期）古墳、奈良・平安	縄文早期（三戸・茅山）、住居（奈良・平安）	印旛沼
第5図－39	中峠遺跡	平賀中峠3088～3134他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器	印旛沼
第5図－40	前原遺跡	平賀原2596～2643	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器	印旛沼
第5図－41	井ノ崎台遺跡	平賀井ノ崎台788他	集落跡	縄文（早期）、古墳、奈良・平安、中近世	住居、陥穴、炉穴、縄文土器（茅山）、弥生土器、土師器	印旛沼
第5図－42	杉ノ木遺跡	平賀杉ノ木2340～2357	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器	印旛沼
第5図－43	梅作遺跡	平賀梅作2393他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器、土錘	印旛沼
第5図－44	勧堂遺跡	平賀勧堂285他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器	印旛沼
第5図－45	平賀惣行遺跡	平賀惣行610～631他	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早期）、古墳、奈良・平安、中世	住居、陥穴、土坑、縄文土器（茅山）、土師器、須恵器、陶器、銅銭、鉄滓、人骨	印旛沼
第5図－46	古井戸原第1遺跡	平賀古井戸原904～966他	包蔵地 集落跡	弥生（後期）、古墳、奈良・平安	弥生土器、土師器、須恵器、土錘	印旛沼
第5図－47	油作第1遺跡	平賀油作1170～1194	包蔵地 集落跡	旧石器、古墳（後期）、奈良・平安、中近世	住居、掘立柱建物跡、石器、土師器、銭、竹玉	印旛沼
第5図－48	榎台第2遺跡	平賀榎台2147他	包蔵地	古墳、奈良・平安	土師器、須恵器	印旛沼
第5図－49	油作第2遺跡	平賀油作1200～1204	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早期・前期）、古墳時代（前期）、奈良・平安	住居、掘立柱建物跡、ポイント、フレイク・有舌尖頭器、縄文土器（諸磯）、鉄製品	印旛沼
第5図－50	駒込遺跡	平賀駒込1301他	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早期・晩期）、弥生（後期）、古墳（後期）	掘立柱建物跡、住居、炉穴、土坑、ナイフ、縄文土器（茅山）、弥生（後期）、土師器	印旛沼
第5図－51	仲ノ台遺跡	平賀仲ノ台1415他	包蔵地 集落跡	旧石器、弥生（後期）、古墳（中期）	住居、ポイント、弥生土器（後期）、土師器	印旛沼
第5図－52	一ノ台遺跡	平賀一ノ台1804～1826	包蔵地 集落跡	旧石器、縄文（早期・中期）、弥生（後期）、古墳（前・後期）	住居、土坑、溝、炉穴、ポイント、縄文土器（田戸・茅山・加曽利E）、弥生土器（後期）	印旛沼
第5図－53	畑田遺跡	平賀字畑田2736他	集落跡	古墳後期	住居（古墳後期）	印旛沼

古墳群・塚（K）

No.(遺跡分布地図)	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要		
		千葉県印西市		時代（時期）等	遺構・遺物等	水系
K1	山田船巻古墳	山田船巻994-1	古墳	古墳	円墳17m×1m	印旛沼
K2	上船巻1号墳	山田上船巻968	包蔵地	古墳	不明	印旛沼
K3	上船巻7号墳	山田上船巻965	古墳	古墳	前方後円墳。20×8×2m	印旛沼
K4	稲荷前古墳群	山田稲荷前1302他	古墳	古墳	8基の古墳で構成される。1号墳が前方後円墳。他は円墳と1基の方墳	印旛沼
K5	市井台古墳群	山田市井台739他	古墳	古墳	7基の古墳で構成される。7号墳が方墳の他は、円墳	印旛沼
K6	恵古墳群	恵3515他	古墳	古墳	7基の円墳で構成	印旛沼
K7	山田谷々津古墳	山田谷々津2757他	古墳	古墳	前方後円墳35m×14m×3m	印旛沼
K8	光明寺第2号塚	山田光明寺149-1	集落跡・塚	縄文・古墳・中近世	円形9.2m×2m。住居、陥穴、土坑、縄文土器、土師器、ホウケ、石器	印旛沼
K9	新田台古墳	山田新田台291	古墳	古墳	不明	印旛沼
K10	山田妙田古墳	山田妙田328	古墳	古墳	円墳11m	印旛沼
K11	花島古墳群	平賀花島2907-9他	古墳	古墳	9基の古墳で構成。5号墳と9号墳が前方後円墳。他は円墳	印旛沼
K12	鹿町古墳	平賀鹿町2804-1	古墳	古墳	円墳	印旛沼
K13	神津横穴群	平賀神津1715他	古墳	古墳	4基で構成	印旛沼
K14	勧堂古墳群	平賀勧堂285-1他	古墳	古墳	17基の古墳で構成。15号墳と17号墳が前方後円墳。他は円墳	印旛沼
K15	山ノ下古墳群	平賀山ノ下678他	古墳	古墳	13基で構成。10基消滅。1号墳で構成される	印旛沼
K16	古井戸原古墳群	平賀古井戸原1009他	古墳	古墳	6基の古墳で構成。2号墳と4号墳が前方後円墳。6号墳は方墳。塚と思われる。他は円墳	印旛沼
K17	榎台古墳群	平賀榎台2220-1他	塚	中近世	塚6基（中世）	印旛沼
K18	平賀駒込古墳	平賀字駒込1300	古墳	古墳	円墳	印旛沼
K19	仲ノ台古墳	平賀仲ノ台1443	古墳	古墳	円墳18m	印旛沼
K20	平賀勝負古墳	平賀字勝負1773	古墳	古墳	円墳18m	印旛沼

第２章　三度山遺跡（第３地点）

第１節　遺跡の立地（第１・２・７図）

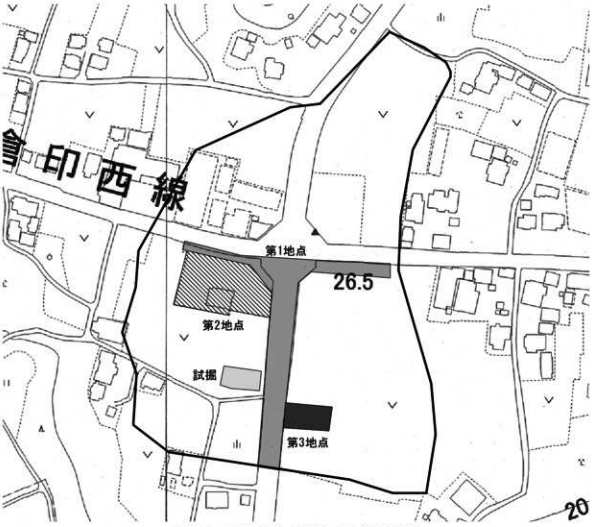
北印旛沼の西岸約3.9㎞に位置し、印旛沼によって開析された舌状台地の付け根の標高27ｍに所在する。調査地点は主要地方道佐倉印西線の竜腹寺付近の交差点から南へ約100ｍ付近にあたる。

第２節　調査の方法（第８図）

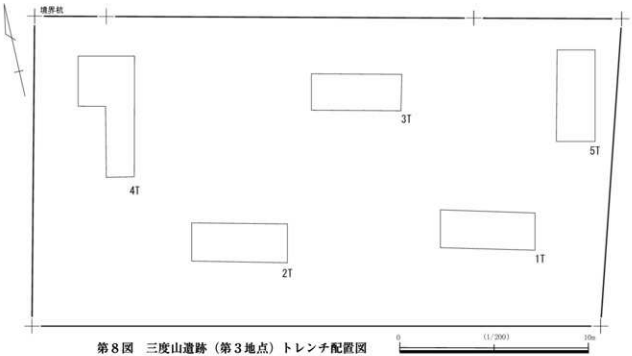
トレンチを任意に５本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/100）を作成した。

第３節　検出した遺構と遺物（第８・９図　図版１・10）

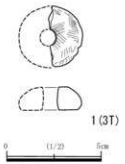
遺構は検出しなかった。全面がトレンチャーによる撹乱を受けていた。遺物は３トレンチから石製紡錘車が１点出土したが、遺構に伴うものではない。その他１トレンチから石英１点、２トレンチから近代陶器が出土したが、小片のため図示しえない。遺物の詳細は第５表に表記した。



第７図　三度山遺跡（第３地点）遺跡位置図



第８図　三度山遺跡（第３地点）トレンチ配置図



第９図　三度山遺跡（第３地点）出土遺物

第５表　三度山遺跡（第３地点）　出土遺物観察表

掲載No.	器種	計測値等
1	石製品 紡錘車	長5.3cm、幅3.3cm、孔径0.9cm×0.9cm、重量9.9ｇ。石材：蛇紋岩。

第３章　大畑遺跡（第６地点）

第１節　遺跡の立地（第１・３・10図）

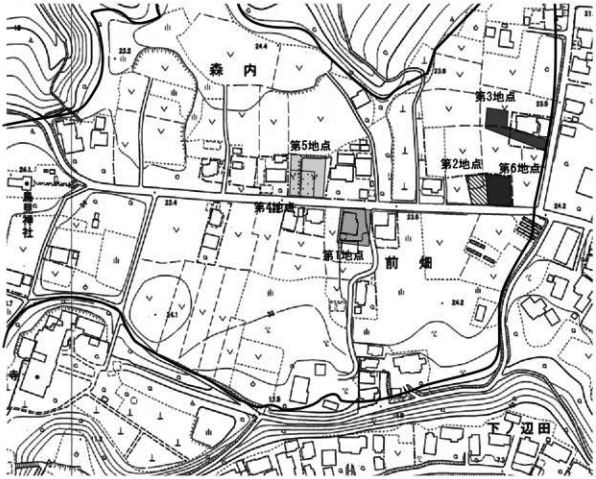
遺跡は北に利根川、南に亀成川を望む東西に長い台地上に位置する。調査地点は台地の基部にあたり、標高約23mから24mに所在する。

第２節　調査の方法（第11図）

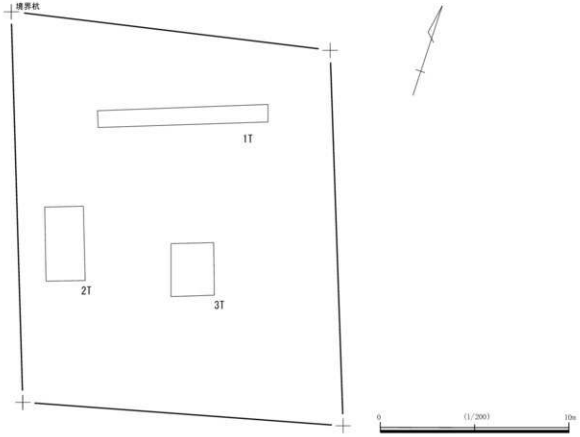
トレンチを任意に３本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/100）を作成した。

第３節　検出した遺構と遺物（第11図　図版１・２）

遺構は検出しなかった。上面からの撹乱の影響で、確認面までが浅かった。遺物は２トレンチから近世陶磁器１点、３トレンチから紡錘車１点が出土したが、小片のため図示しえない。その他に一括資料として、土師器坏、甕５点、近世の灯明皿１点、近代陶器１点が採集された。



第10図　大畑遺跡（第６地点）遺跡位置図



第11図　大畑遺跡（第６地点）トレンチ配置図

第４章　安養寺遺跡

第１節　遺跡の立地（第１・４・12図）

遺跡は神崎川と印旛沼放水路（新川）の分岐付近から北へ約１kmに位置する。調査地点は、周辺の小河川により半島状に開析された台地南側縁辺部の標高約24mに所在する。

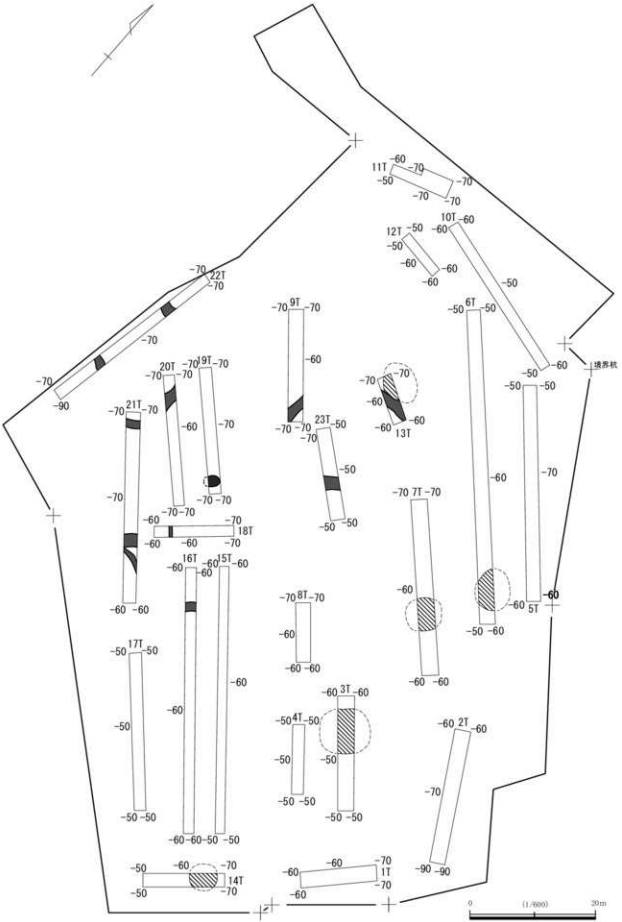
第２節　調査の方法（第13図）

トレンチを任意に23本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/500）を作成した。

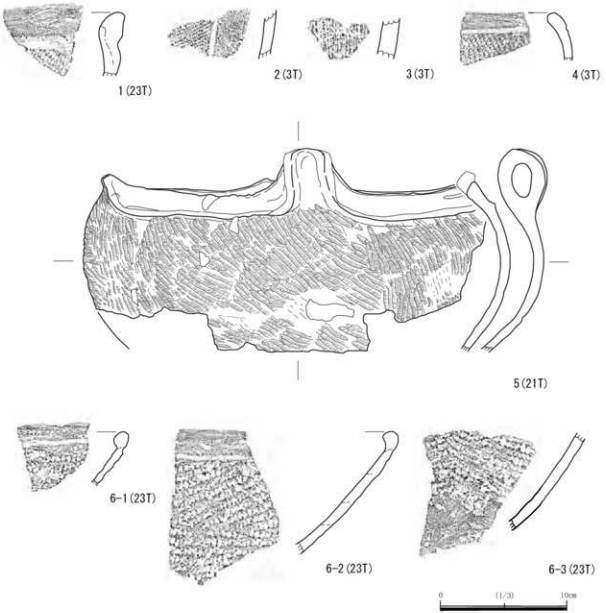
第３節　検出した遺構と遺物（第13・14・15図　図版２～６・10）

縄文時代竪穴住居跡５軒、近世溝状遺構11条、土坑１基を検出した。調査区全面でトレンチャーによる撹乱の影響を受けている。遺物は縄文土器が主であり、図示した遺物は中期後半の加曽利ＥⅢ式からＥⅣ式、後期は堀之内１式が出土している。そのほか図示しえないが、３トレンチから加曽利ＥⅣ式、６トレンチから後期に帰属する破片３点、７トレンチから加曽利ＥⅣ式と近代陶器、21トレンチから加曽利ＥⅣ式、23トレンチから加曽利ＥⅣ式のほか、土師器坏と近代陶器がそれぞれ出土している。遺物の詳細は第６表に表記した。

第12図　安養寺遺跡位置図



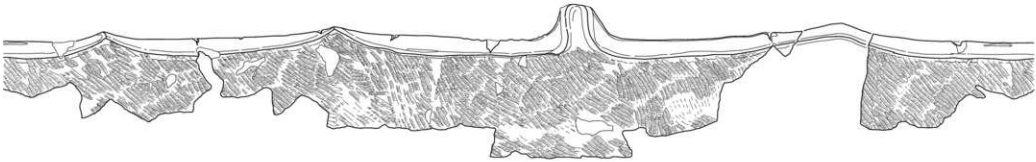
第13図　安養寺遺跡トレンチ配置図



第14図　安養寺遺跡出土遺物

第６表　安養寺遺跡　出土遺物観察表

掲載No	器種	法量（cm）	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	緩い波状口縁。口縁部に半截竹管背部による太い方画的な区画を有する。区画内に単節RL縄文を施す。	石英・長石少量。	にぶい褐色	良	口縁部片。加曽利ＥⅢ式。
2	縄文土器 深鉢	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	半截竹管背部による縦位沈線により縦側区画を構成する。沈線間は無文。区画内に単節LR縄文を施す。	石英・長石・赤色粒子多量。	にぶい赤褐色	良	胴部片。加曽利ＥⅢ式。
3	縄文土器 深鉢	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	ヘラ状工具による縦位条線を施す。	石英・長石多量。	にぶい赤褐色	良	胴部片。加曽利ＥⅢ式。
4	縄文土器 深鉢	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	口縁部無文帯。半截竹管背部による沈線を１条一巡させる。以下は摩滅のため不明瞭ではあるが、単節LR縄文を斜位に施す。	石英・長石・白色針状物微量。	にぶい橙色	良	口縁部片。加曽利ＥⅣ式。
5	縄文土器 深鉢	口径　29.8　cm 器高<16.1>cm 底径　－　cm	4単位の波状口縁。１ヶ所のみ環状把手。断面三角形状の段縁を１条横位に巡らせ、無文帯を形成する。以下は無節L縄文を全面に施す。	石英・長石多量。白色粒子微量。	暗褐色	良	口縁部～胴部4/5。加曽利ＥⅣ式。
6	縄文土器 浅鉢	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	口唇部強撫付により内側に肥厚する。口唇部直下に無文帯を有し、半截竹管背部による沈線を１条一巡させる。以下は単節LR縄文を斜位及び横位に施す。	石英・長石多量。白色針状物微量。	外面：褐色 内面：にぶい褐色	良	口縁部片。堀之内Ⅰ式。



5(21T)

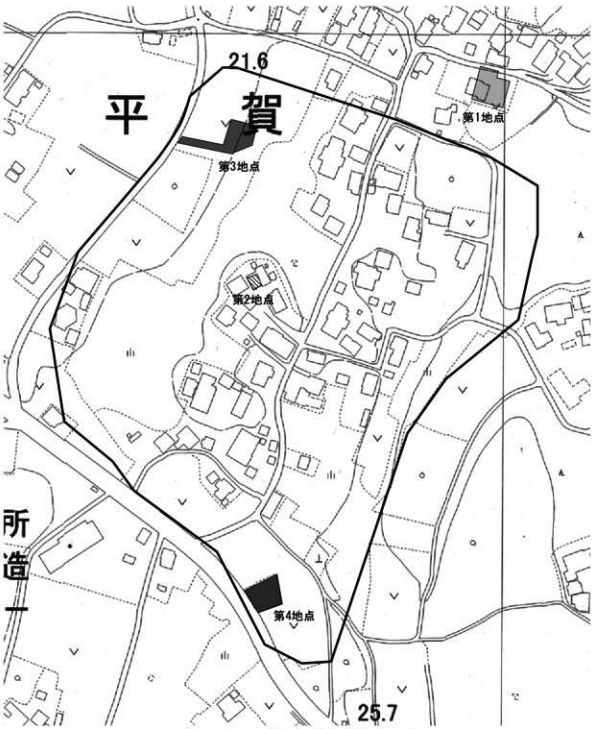
0 (1/4) 10cm

第15図　安養寺遺跡　遺物No.5展開図

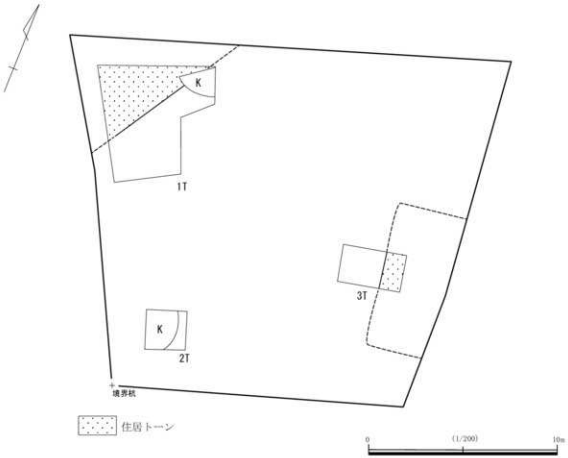
第５章　古井戸後遺跡（第４地点）

第１節　遺跡の立地（第１・５・６・16図）

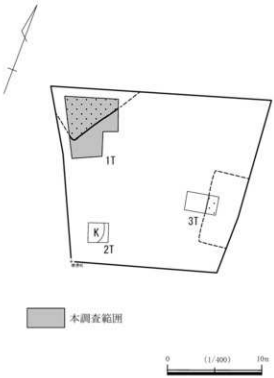
遺跡は北印旛沼と西印旛沼に挟まれた半島状に突き出る広大な台地上に位置する。調査地点は印旛沼中央排水路から北東方向へ1.0kmほど内陸部に入った標高約26mの台地上に所在する。



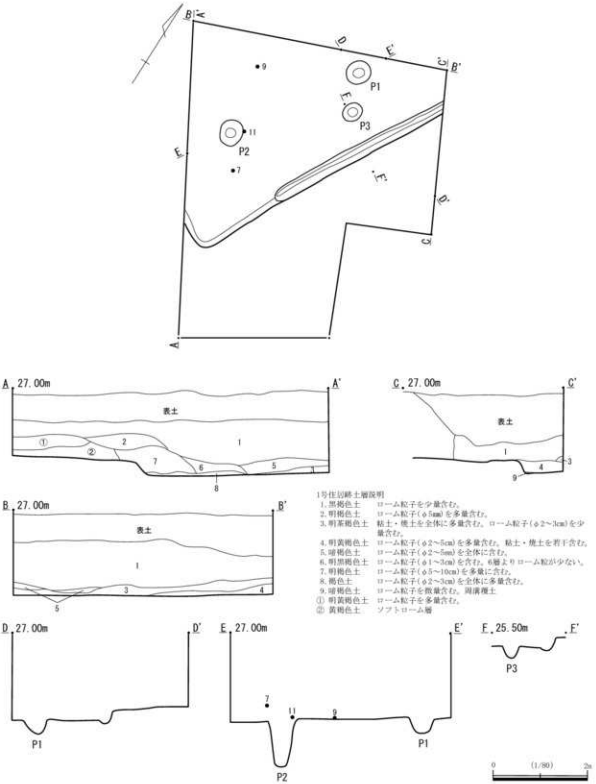
第16図　古井戸後遺跡（第４地点）位置図



第17図　古井戸後遺跡（第４地点）確認調査範囲



第18図　古井戸後遺跡（第４地点）本調査範囲



第19図　古井戸後遺跡（第４地点）１号住居跡

第７表　古井戸後遺跡（第4地点）1号住居跡観察表

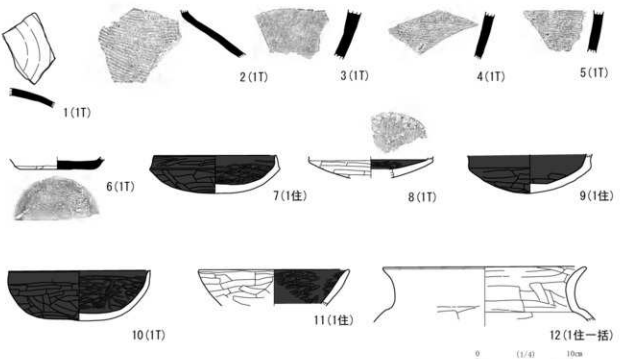
遺構No.	調査種別	主軸	規模				カマド			
1号住居	本調査	N:28°-E	長軸<6.4>m×短軸<4.3>m×深さ23.0~29.0cm				煙道部	調査区内検出せず		
							火床面	調査区内検出せず		
	壁高		周溝規模		柱			穴		
	東壁 <6.0>m		長さ	<4.07>m	P1	長径51cm×短径47cm×深さ29cm		P3	長径46cm×短径38cm×深さ23cm	
	西壁 <1.0>m		深さ	25~37cm	P2	長径54cm×短径48cm×深さ97cm				

第２節　調査の方法（第17・18図）

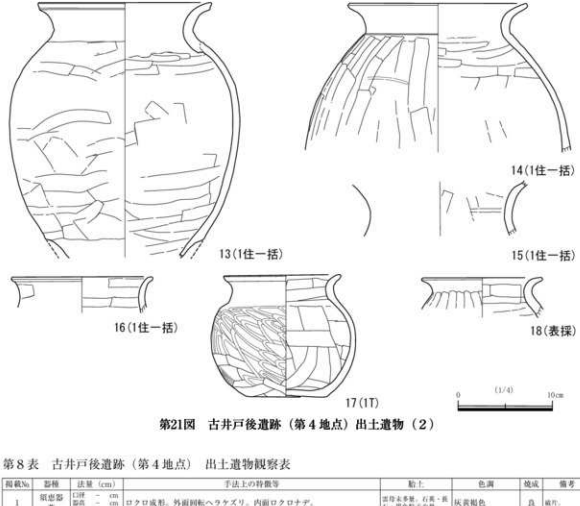
事前協議結果に基づき、掘削を伴う影響範囲を対象に任意のトレンチを３ヶ所設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構の検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/100）を作成した。調査の結果、１トレンチと３トレンチからそれぞれ１軒の竪穴住居跡が検出した。この確認結果を受けて再度、取扱いについて協議を行い、１トレンチのみ本調査の対象とすることとなった。埋め戻した調査区のうち、１トレンチを重機により拡張し、その後人力による遺構検出作業を行った。作業の進捗に伴い適宜、写真撮影を行い、遺構平面図、遺物出土状況図（縮尺1/40）及び土層堆積図（縮尺1/20）を作成した。

第３節　検出した遺構と遺物（第19～21図　図版６～８・11）

検出した住居跡は、古墳時代後期に帰属する。遺構確認面までは1.2mと深く、遺存状態は良好である。カマドは調査区外の北側に位置していると思われる。柱穴は３基検出した。ピット１、２が主柱穴である。ピット３は側柱になろうか。周溝は東辺の一部で検出した。遺物はピット２付近に土師器坏が比較的集中している。その他に須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕・小型甕が出土している。土師器坏や小型甕のなかには完形のものも認められ、遺物の遺存状態も良い。本址は出土遺物から６世紀後半から7世紀初頭に帰属される。遺構、遺物の詳細は第７表及び第８表に表記した。



第20図　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物（1）



第21図　古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物（２）

第８表　古井戸後遺跡（第４地点）　出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量（cm）	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	須恵器 蓋	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	ロクロ成形。外面回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	雲母未多量。石英・黒石・黒色粒子少量。	灰黄褐色	良	破片。
2	須恵器 甕	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	胴部外面横位平行タタキ。内面ヘラナデ。当具痕あり。	雲母未・石英・長石・白色砂粒多量。	にぶい黄褐色	良	肩部片。
3	須恵器 甕	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	石英・長石少量。	褐灰色	良	胴部片。
4	須恵器 甕	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	胴部外面横位平行タタキ。内面ナデ。	石英・長石多量。	灰色	良	胴部片。
5	須恵器 甕	口径　－　cm 器高　－　cm 底径　－　cm	胴部外面横位平行タタキ。内面ナデ。	石英・長石・黒色粒子多量。白色粒子少量。	灰色	良	胴部片。
6	須恵器 坏	口径　－　cm 器高<13.3>cm 底径　7.5 cm	ロクロ成形。底部下端手持ちヘラケズリ。底部外面手持ちヘラケズリ。内面ロクロナデ。	雲母未多量。石英・長石・黒色粒子少量。	灰黄褐色	良	体部下端～底部1/2。
7	土師器 坏	口径　150cm 器高　4.0cm 底径　－　cm	口縁部外面ヨコナデ後、ヘラミガキ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	石英・長石少量。	にぶい褐色	良	完形。内外面黒色処理。
8	土師器 坏	口径　－　cm 器高<22>cm 底径　－　cm	口縁部付近ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	石英・長石少量。	にぶい黄褐色	良	体部片。内面黒色処理。
9	土師器 坏	口径　－　cm 器高<4.1>cm 底径　－　cm	体部外面ヘラケズリ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・長石少量。白色鉄状物微量。	にぶい褐色	良	口縁～体部1/4。内外面黒色処理。
10	土師器 坏	口径　150cm 器高　5.5cm 底径　－　cm	体部外面ヘラケズリ。口縁部内面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ。	赤色粒子多量。石英・長石少量。白色鉄状物微量。	にぶい橙色	良	口縁～体部3/4。内外面黒色処理。
11	土師器 坏	口径　(16.0)cm 器高　3.8 cm 底径　－　cm	体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	石英・長石多量。白色鉄状物微量。	にぶい橙色	良	口縁～体部1/4。内面黒色処理。
12	土師器 甕	口径　(21.6)cm 器高<62>cm 底径　－　cm	口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	石英・長石多量。白色鉄状物微量。	にぶい橙色	良	口縁～胴部1/4。
13	土師器 甕	口径　18.4 cm 器高<26.6>cm 底径　－　cm	口縁部内面ヨコナデ。胴部外面ヘラナデ。胴部内面ヘラナデ。	雲母未・石英・長石・赤色鉄粒少量。白色鉄状物微量。	にぶい橙色	良	口縁～胴部下端1/4。
14	土師器 甕	口径　(18.0)cm 器高<15.7>cm 底径　－　cm	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	石英・長石・赤色粒子多量。白色鉄状物微量。	褐色～黒褐色	良	口縁～胴部1/2。
15	土師器 甕	口径　－　cm 器高<57>cm 底径　－　cm	頸部内外面ヨコナデ。内面ヘラナデ。	雲母未・石英・長石・白色砂粒多量。赤色粒子少量。	にぶい橙色	良	頸部1/4。
16	土師器 甕	口径　(15.0)cm 器高<38>cm 底径　－　cm	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラナデ。	赤色粒子多量。石英・長石少量。	にぶい橙色	良	口縁部1/4。
17	土師器 小型甕	口径　12.6cm 器高　12.9cm 底径　8.6cm	口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラミガキ。底部外面ヘラナデ。内面ヘラナデ。	石英・長石多量。	暗オリーブ褐色	良	完形。
18	土師器 小型甕	口径　(12.8)cm 器高<12.7>cm 底径　－　cm	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。胴部内面ヘラナデ。	石英・長石多量。赤色粒子少量。	にぶい赤褐色	良	口縁部1/4。

第６章　向新田遺跡（第４地点）

第１節　遺跡の立地（第１・４・22図）

遺跡は西に白井市、南に八千代市を望む印西市の市境にあたり、北総鉄道の「千葉ニュータウン中央駅」の南西約1.5㎞、標高約24mの台地上に所在する。周辺は遺跡の南側を流れる神崎川とその支流により東西を開析され、南に張り出す地形になっている。調査地点はその基部付近に位置する。

第２節　調査の方法（第23図）

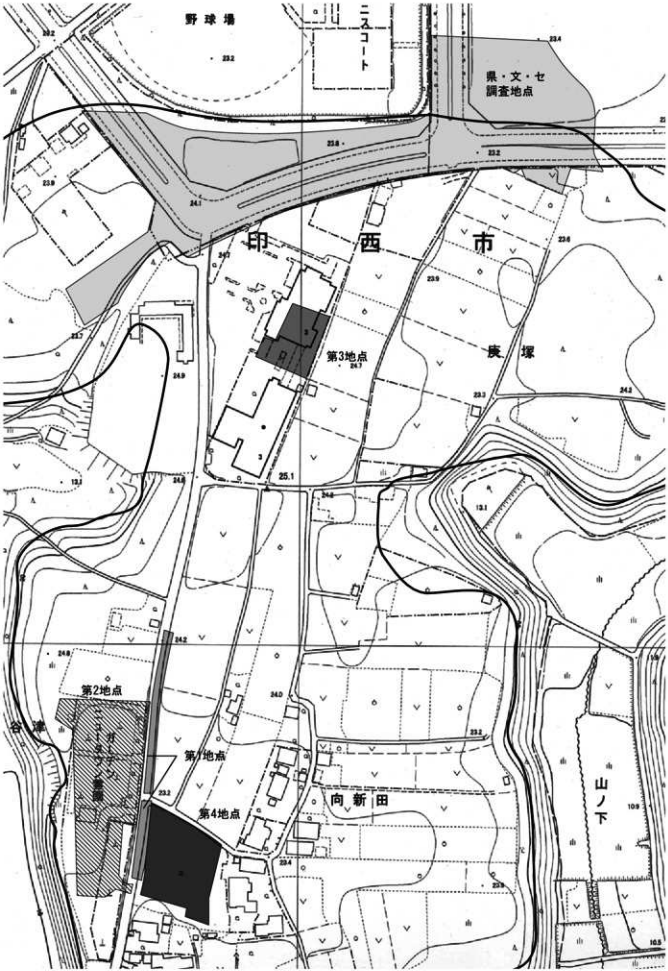
トレンチを任意に９本設定した。最初に、重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺1/300）を作成した。

第３節　検出した遺構と遺物（第23・24図　図版８・９・12）

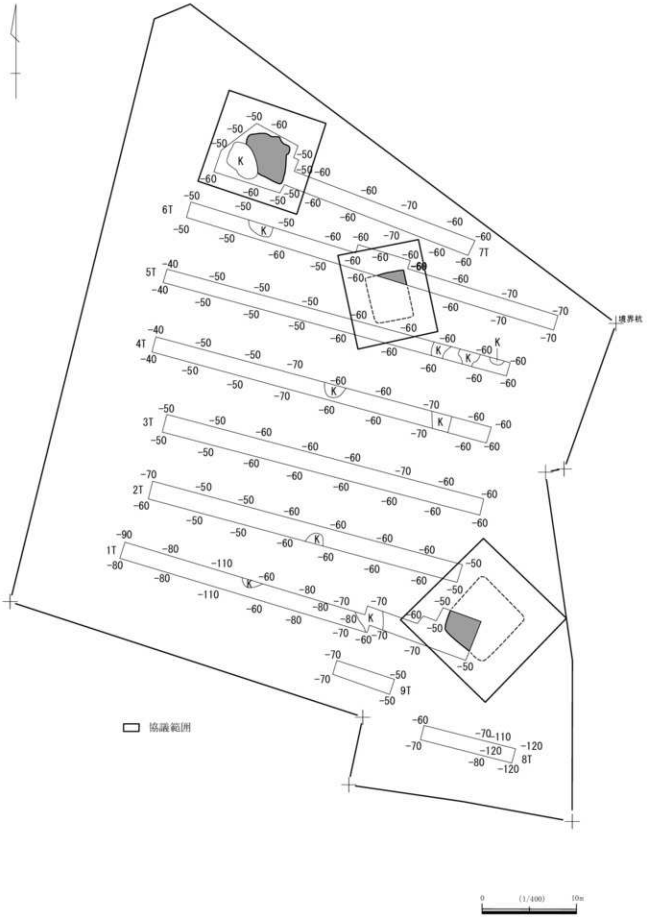
平安時代の竪穴住居跡３軒を検出した。遺物は該期が主であり、須恵器高台付坏、・瓶類・甕、土師器坏・甕に若干の早期条痕文系の縄文土器や弥生時代後期の甕の破片が含まれる。本遺跡は出土遺物から９世紀中葉～後葉に帰属する集落が存在していると考えられる。遺物の詳細は第10表に表記した。

第９表　向新田遺跡調査歴

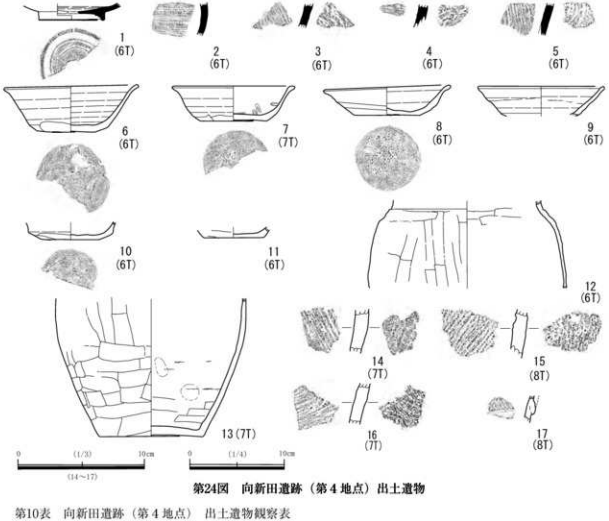
調査機関	遺跡名称	調査原因	調査期間	主な遺構・遺物	文献
財団法人 千葉県文化財センター	向新田遺跡	道路建設	1983年6月１日～6月20日、 11月1日～1984年3月 31日	旧石器時代石器集中区1ヶ所、縄文時代陥穴1基・石器製作跡1ヶ所、古墳時代前期住居跡53軒、掘立柱建物跡5棟・土坑2基、奈良・平安時代住居跡2軒、中近世土坑6基、土坑列5条、溝14 条	報告書第423集千葉県 ニュータウン埋蔵文化財 調査報告書ＸＶ
財団法人 千葉県文化財センター	向新田遺跡Ⅰ		1993年9月1日～1994年1月17日		
財団法人 千葉県文化財センター	向新田遺跡Ⅱ		1993年9月20日～1994年1月20日		
印西市教育委員会		市道拡幅	1994年1月20日～2月3日	縄文時代陥穴1基、弥生時代後期住居跡2軒、近世道跡	
財団法人 印旛郡市文化財センター	向新田遺跡	市道拡幅	1994年9月1日～9月22日（1次調査） 1995年2月3日～2月10日（2次調査）	弥生時代後期住居跡1軒・土坑2基、奈良・平安時代住居跡1軒、近世土坑2基・溝6条	報告書第166集 向新田遺跡
印西市教育委員会		市道拡幅	1995年12月25日～12月26日	縄文時代中期土坑1基	
印西市教育委員会		墓地造成	1997年4月10日	遺構なし、弥生土器	
印西市教育委員会	上谷津塚群	墓地造成	1997年7月24日～7月31日	塚1基	平成9年度印西市内遺跡 発掘調査報告書－上谷津塚群－
印西市教育委員会		貯水槽設置	1997年11月7日	遺構・遺物なし	
印西市教育委員会		市道拡幅	1997年12月15日～1998年3月24日	時期不明土坑1基	
財団法人 印旛郡市文化財センター	向新田遺跡第2地点	墓地造成	2001年12月3日～12月14日	縄文時代早期住居跡1軒・炉穴1基・土坑2基、弥生時代後期住居跡1軒	報告書第193集向新田遺跡第2地点
財団法人 千葉県教育振興財団	武西近隣遺跡	市街地開発 関連事業	2008年7月1日～8月29日	旧石器時代石器集中地点2ヶ所、縄文時代陥穴1基、弥生時代住居跡4軒	報告書第733集千葉 ニュータウン埋蔵文化財 調査報告書ＸＸＸ
財団法人 千葉県教育振興財団	向新田遺跡	市街地開発 関連事業	2010年3月1日～3月15日	近世野馬土手1条・野馬堀1条	
財団法人 印旛郡市文化財センター	向新田遺跡第3地点	建物建設	2010年12月13日～2011年1月13日	縄文時代陥穴1基、古墳時代前期住居跡5軒・土坑12基・ピット11基	報告書第304集向新田遺跡第3地点
印西市教育委員会	向新田遺跡第4地点	宅地整備	2021年1月14日～1月20日	奈良・平安時代住居跡3軒	本 書



第22図　向新田遺跡（第４地点）遺跡位置図



第23図　向新田遺跡（第４地点）トレンチ配置図



第24図　向新田遺跡（第４地点）出土遺物

第10表　向新田遺跡（第４地点）　出土遺物観察表

掲載No.	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	須恵器 高台付坏	口径 － 器高 － 底径 (7)6	ロクロ成形。体部下端回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。高台貼付後、ロクロナデ。	石英・長石・黒色粒子少量。	灰黄色	良	体部下端～高台部は、底面に入為的穿孔。
2	須恵器 転用	口径 － 器高 － 底径 －	ロクロ成形。体部外面ロクロナデか。内面ナデ。	黒色粒子多量。白色粒子少量。	褐灰色	良	側面片。
3	須恵器 甕	口径 － 器高 － 底径 －	胴部外面平行タタキ。内面当具痕。	石英・長石多量。白色雲母砂多量。	褐灰色	良	側面片。
4	須恵器 甕	口径 － 器高 － 底径 －	胴部外面平行タタキ。内面当具痕。	石英・長石多量。白色雲母砂多量。	褐灰色	良	側面片。
5	須恵器 甕	口径 － 器高 － 底径 －	胴部外面平行タタキ。内面当具痕。	石英・長石少量。	灰黄褐色	良	側面片。
6	土師器 坏	口径 142cm 器高 48cm 底径 62cm	ロクロ成形。体部外面ロクロナデ。下端部手持ちヘラケズリ。底部外面手持ちヘラケズリ。内面ロクロナデ。	石英・長石・白色雲母砂多量。赤色粒子少量。白色針状物微量。	にぶい赤褐色	良	口縁～底部2/3。
7	土師器 坏	口径 － 器高 － 底径 7.0cm	ロクロ成形。体部外面ロクロナデ。下端部手持ちヘラケズリ。底部外面回転糸切り後、周縁部回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。底面にヘラミガキ。	石英・長石多量。赤色粒子少量。白色針状物微量。	外面：にぶい橙色 内面：明赤褐色	良	口縁～底部1/2。
8	土師器 坏	口径 － 器高 27～32cm 底径 6.6cm	ロクロ成形。体部外面ロクロナデ。下端部回転ヘラケズリ。底部外面回転糸切り後、周縁部回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	石英・長石多量。赤色粒子少量。白色針状物微量。	にぶい赤褐色	良	口縁～底部1/3。
9	土師器 坏	口径 (15.6 cm 器高 <3.1>cm 底径 － cm	ロクロ成形。体部外面ロクロナデ。輪積み痕。下端部回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。外面に山砂付着。	石英・長石・雲母末少量。	明赤褐色	良	口縁～体部1/3。
10	土師器 坏	口径 －cm 器高 <4.9>cm 底径 6.0 cm	体部外面ロクロナデ。下端部手持ちヘラケズリ。底部外面回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	石英・長石少量。白色針状物微量。	にぶい褐色	良	体部下端～底部1/4。
11	土師器 坏	口径 －cm 器高 <11>cm 底径 16.0cm	体部外面ロクロナデ。下端部手持ちヘラケズリ。底部外面回転糸切り後、手持ちヘラケズリ。内面ロクロナデ。	石英・長石・赤色粒子多量。	にぶい赤褐色	良	体部下端～底部片。
12	土師器 甕	口径 －cm 器高 <9.2>cm 底径 － cm	頸部外面コナデ。胴部外面縦位ヘラケズリ。輪積み痕あり。頸部内面ヨコナデ。胴部内面ヘラナデ。	赤色粒子多量。石英・長石・雲母末少量。	にぶい橙色	良	頸部～胴部1/4。
13	土師器 甕	口径 －cm 器高 <14.2>cm 底径 (11.0)cm	胴部外面縦位及び横位ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。指頭痕及び輪積み痕。	石英・長石多量。	外面：褐灰色 内面：灰黄褐色	良	胴部～底部1/2。
14	縄文土器 深鉢	口径 －cm 器高 －cm 底径 － cm	表裏斜位貝殻条痕文。	繊維・石英・長石多量。	赤褐色	良	側部片。早期条痕文。
15	縄文土器 深鉢	口径 －cm 器高 －cm 底径 － cm	表裏斜位貝殻条痕文。	繊維・石英・長石多量。	外面：にぶい褐色 内面：暗褐色	良	側部片。早期条痕文。
16	縄文土器 深鉢	口径 －cm 器高 －cm 底径 － cm	斜位貝殻条痕文（表）。縦位貝殻条痕文（裏）。	繊維多量。石英・長石少量。	にぶい褐色	良	側部片。早期条痕文。
17	弥生土器 甕	口径 －cm 器高 －cm 底径 － cm	横位隆帯貼り付け。早節以縄文。	石英・長石少量。	褐色	良	側部片。弥生時代前期。

第７章　まとめ

三度山遺跡（第３地点）

縄文時代早期の遺構等の検出が期待されたが、該期の遺構、遺物等の検出はなかった。しかしながら弥生時代から古墳時代の所産と考えられる石製紡錘車１点の出土が認められるので、該期の遺構が付近に所在する可能性がある。本遺跡周辺は、縄文時代早期が主体を占める地域でもあるので発見されれば新知見となり、遺跡の時間幅が変更されるであろう。

大畑遺跡（第６地点）

遺構等の検出はなかった。出土遺物も少量に留まる。しかしながら、掲載外となった遺物のなかには土師器の坏、甕や土製紡錘車の破片が見受けられるので、今後の調査により古墳時代から奈良・平安時代の遺構の検出も期待される。大畑遺跡周辺は多くの遺物が採集できる状況にあるので、比較的濃密な遺跡と捉えられてきたが、過年度の調査も含め、第４、５、６地点では遺構の検出等は見られない。いずれも小規模調査のため慎重な判断が必要であるが、遺構の主体は台地の東側縁辺部から南側の台地中央部にかけて集中する傾向があると思われる。

安養寺遺跡

今回の調査が本遺跡初の調査となった。縄文時代竪穴住居跡や近世溝状遺構、土坑が検出していることから複合遺跡になる可能性もあるが、加曽利ＥⅣ式のまとまった資料が得られている点から該期が主体を占める集落跡であると考えられる。もとより周辺では縄文時代の遺跡が多く、なかでも隣接する向新田遺跡の北側は早期が主体を占める傾向が看取できるが、安養寺遺跡はその向新田遺跡の南側の台地にあたり、今回は中期後半が主体となることに相違点がみられる。このことから、北側は早期、南側は中期と占地に変化があることが指摘できる結果となった。また、水系により縄文時代の遺跡分布に差異があることは以前から指摘されているが、神崎川に面した台地には後期が多く、戸神川上流には早期撚糸文や条痕文系が多い。総じて南側に向かうにしたがって時期が新しくなることからも、中期の分布も南側に偏る可能性が高い。この点も含めて今後の調査に期待したい。

古井戸後遺跡（第４地点）

今回の調査を含めて４地点めの調査となった。偶然にも第３地点は遺跡範囲の北端、第２地点は中央部、第４地点は南端部となり、遺跡全体に対して試掘を行ったような状況となった。過年度の調査成果と合わせてみると、中央部の第２地点では遺構の検出はみられなかったものの奈良・平安時代の所産と思われる土錘と刀子が出土している。北端にあたる第３地点では、８世紀後半の住居跡１軒が検出した。第４地点は６世紀後半から７世紀初頭に帰属する住居跡１軒が検出した。本遺跡が所在する平賀地区周辺は、半島状に突き出た南側の台地縁辺部に古墳群が集中し、その築造に関わる後期の集落が伴うことは以前から指摘されていた。また、奈良・平安時代に伴い、台地中央部から北側の山田地区に移行していく傾向があることも周知の見解である。今回の調査もそれを裏付ける結果となり、おそらく古井戸後遺跡も南側に古墳時代後期から終末期にかけての集落が展開し、北側は奈良・平安時代の小規模な集落が存在すると考えられる。

向新田遺跡（第４地点）

今回の調査では、９世紀中葉から後葉に比定される住居跡が３軒検出した。過年度の調査歴と比較してみると主体は古墳時代前期となっていて、該期の遺構は千葉県文化財センターの調査で２軒、当センターの調査でも１軒のみの検出に留まっている。総じて該期の集落は、特殊な状況下にない限り大規模な展開を示さない。同様に向新田遺跡自体もそれほど多くは検出していない。既に本遺跡の北東側には、鳴神山遺跡など

の拠点的集落が存在していることからも、今後も散発的な展開に留まる傾向が看取される。

参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）－東葛飾・印旛地区（改定版）－』千葉県教育委員会　1997年
報告書第423集『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＶ』財団法人千葉県文化財センター　2002年
報告書第550集『佐倉印西線（地方道路交付金）埋蔵文化財調査報告書３－本埜村竜腹寺１号墳－』財団法人千葉県教育振興財団　2006年
報告書第733集『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＸＸ』公益財団法人千葉県教育振興財団　2014年
『平成９年度印西市内遺跡発掘調査報告書　上谷津塚群　』印西市教育委員会　1998年
『平成15年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2004年
『平成16年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2005年
『平成17年度～平成24年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2014年
『平成25年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2015年
『平成26年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2016年
『平成27年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2017年
『平成28年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2018年
『平成29年度印西市内遺跡発掘調査報告書』印西市教育委員会　2019年
『財団法人印旛郡市文化財センター年報９－平成４年度－』財団法人印旛郡市文化財センター　1993年
『財団法人印旛郡市文化財センター年報10－平成５年度－』財団法人印旛郡市文化財センター　1994年
報告書第13集『天神台遺跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター　1987年
報告書第37集『武西千駄苟遺跡確認調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター　1990年
報告書第47集『龍腹寺１号塚・天王前遺跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター　1991年
報告書第50集『天神台・ヤジダ遺跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター　1991年
報告書第86集『曽谷窪遺跡発掘調査報告書』財団法人印旛郡市文化財センター　1995年
報告書第149集『天王前遺跡（第２次）』財団法人印旛郡市文化財センター　1999年
報告書第160集『天神台遺跡』財団法人印旛郡市文化財センター　2000年
報告書第166集『向新田遺跡』財団法人印旛郡市文化財センター　2000年
報告書第193集『向新田遺跡第２地点』財団法人印旛郡市文化財センター　2002年
報告書第292集『天神前遺跡』財団法人印旛郡市文化財センター　2011年
報告書第304集『向新田遺跡第３地点』財団法人印旛郡市文化財センター　2011年
報告書第356集『武西千駄苟遺跡（第２次調査）』公益財団法人印旛郡市文化財センター　2018年
報告書第375集『榎台遺跡－第2地点・第3地点・第4地点・第5地点－』公益財団法人印旛郡市文化財センター　2021年

写真図版

三度山遺跡（第3地点）　調査前風景（北西から）

1トレンチ（東から）

2トレンチ（西から）

3トレンチ（西から）

4トレンチ（北から）

5トレンチ（北から）

大畑遺跡（第6地点）　1トレンチ（西から）

2トレンチ（南から）

図版2

3トレンチ（北から）

埋め戻し後（南から）

安養寺遺跡　調査前風景（南から）

調査前風景（西から）

調査前風景（北から）

調査前風景（東から）

1トレンチ（北西から）

2トレンチ（南から）

3トレンチ（東から）

4トレンチ（南東から）

5トレンチ（南東から）

6トレンチ（南東から）

7トレンチ（南東から）

8トレンチ（南東から）

9トレンチ（南東から）

10トレンチ（西から）

11トレンチ（北東から）

12トレンチ（東から）

13トレンチ（東から）

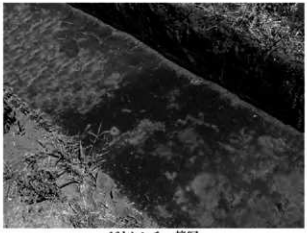
14トレンチ（南西から）

14トレンチ（北東から）

14トレンチ　接写（北東から）

15トレンチ（南東から）

16トレンチ（南東から）


16トレンチ　接写

17トレンチ（南東から）

18トレンチ（南西から）

19トレンチ（南東から）

20トレンチ（南東から）

21トレンチ（南東から）

22トレンチ（北から）

22トレンチ（南から）

図版6

23トレンチ（南東から）

溝の一部掘削（1）

溝の一部掘削（2）

古井戸後遺跡（第4地点）　確認調査　調査前風景（西から）

1トレンチ（1号住居跡）（西から）

1トレンチ（1号住居跡）（南から）

1トレンチ（1号住居跡）遺物出土状況（北から）

2トレンチ（東から）

3トレンチ（西から）

古井戸後遺跡（第4地点）　本調査　調査前風景（南東から）

1号住居跡検出状況（南西から）

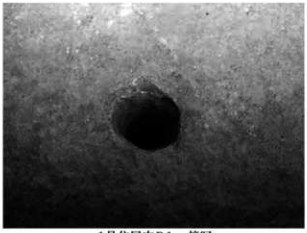
1号住居跡遺物出土状況（北東から）

1号住居跡土層堆積及び遺物出土状況（南東から）

1号住居跡遺物出土状況　接写（東から）

1号住居跡完掘状況（北西から）

1号住居跡完掘状況（東から）



1号住居内P1　接写

向新田遺跡（第4地点）　調査前風景（北西から）

1トレンチ（西から）

1トレンチ　遺構検出状況（北から）

2トレンチ（西から）

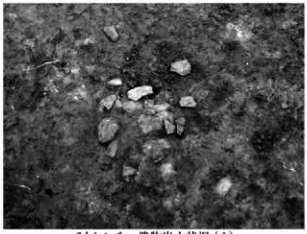
3トレンチ（西から）

4トレンチ（西から）

5トレンチ（西から）

6トレンチ（西から）

6トレンチ　遺構検出状況（拡張）（西から）



6トレンチ　遺物出土状況（1）

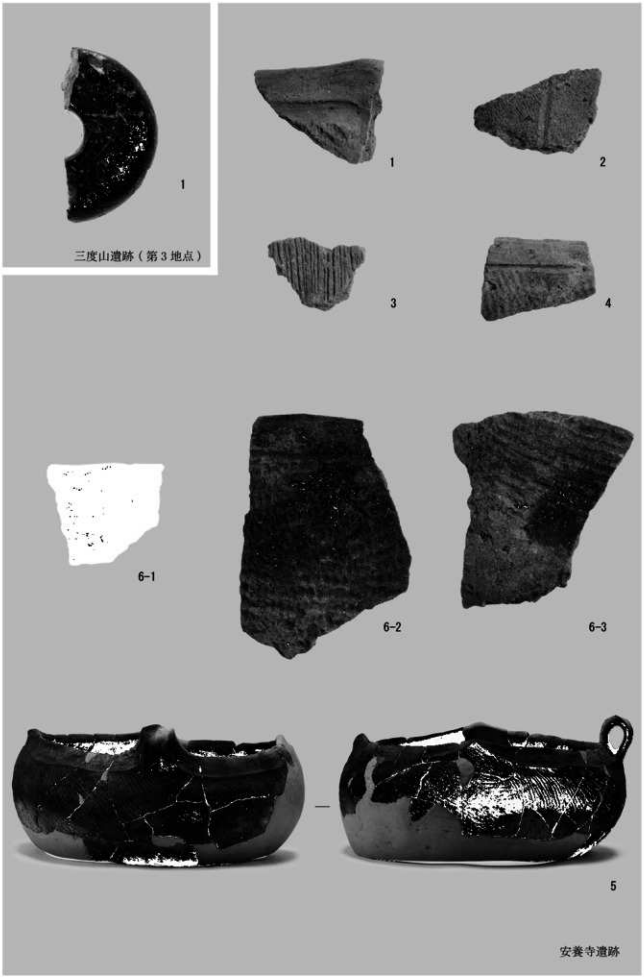
6トレンチ　遺物出土状況（2）

7トレンチ（西から）

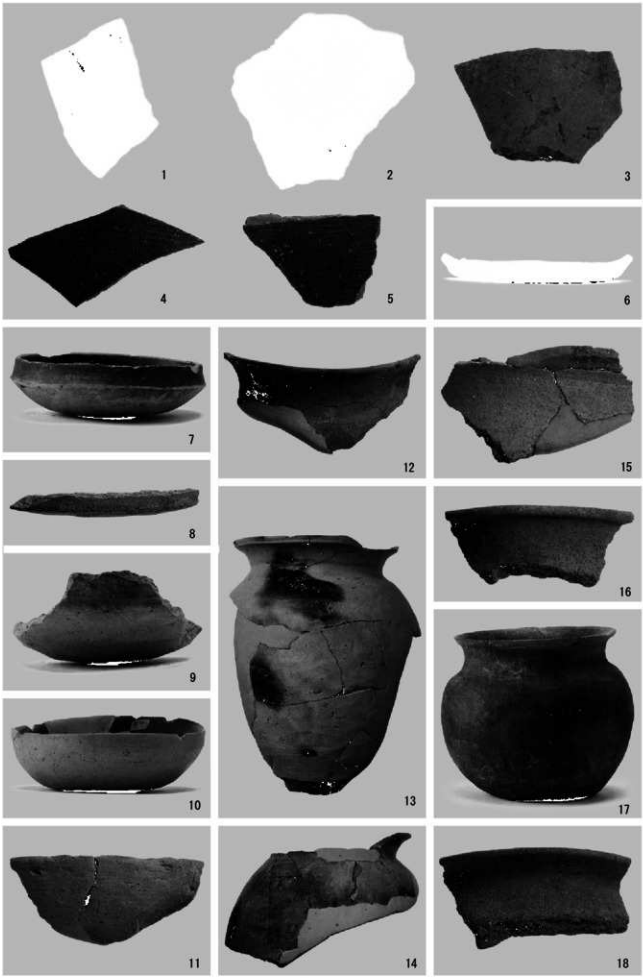
8トレンチ（西から）

8トレンチ（東から）

9トレンチ（西から）

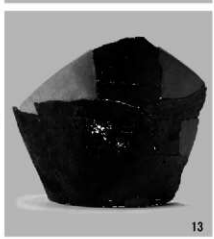


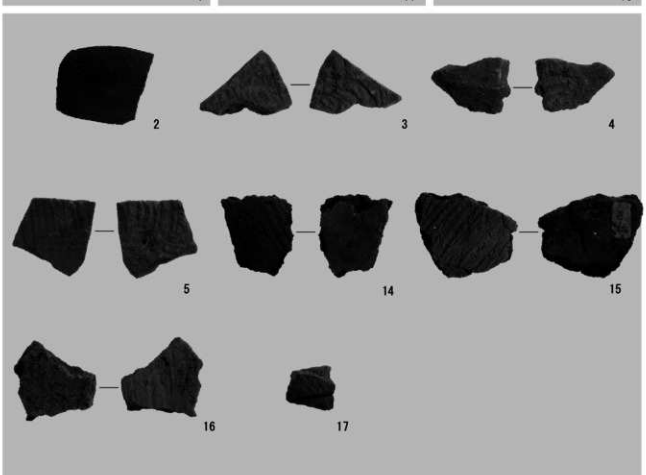
三度山遺跡（第３地点）・安養寺遺跡出土遺物



古井戸後遺跡（第４地点）出土遺物

図版 12





向新田遺跡（第４地点）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	れいわにねんどいんざいしないせきほっくつちょうさほうこくしょ
書名	令和２年度印西市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	蓑多裕明
編集機関	公益財団法人印旛郡市文化財センター
所在地	千葉県佐倉市春路１丁目１番地４
発行年月日	西暦2022年3月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度(世界測地系) 北緯	経緯度(世界測地系) 東経	調査期間	調査面積	調査原因
さんどやまいせき（だい３ちてん） 三度山遺跡(第3地点)	いんざいしりゅうふくじあざみなち550ばん21 印西市竜腹寺字皆持550番21	122319	09-151	35°48′11″ (35.8031)	140°11′18″ (140.1883)	2020年4月3日	55㎡/497.05㎡	個人住宅建設
おおはたいせき（だい6ちてん） 大畑遺跡(第6地点)	いんざいしおおもりあざまえはた2002ばん 印西市大森字前畑2002番	122319	09-152	35°49′52″ (35.8311)	140°08′27″ (140.1408)	2020年6月25日	23.60㎡/338.42㎡	個人住宅建設
あんようじいせき 安養寺遺跡	いんざいしむさいあざだい171・173 印西市武西字台171・173番	122319	09-153	35°47′04″ (35.7844)	140°06′41″ (140.1114)	2020年8月4日～2020年8月17日	853㎡/7,992㎡	太陽光発電施設設置
こいどうしろいせき（だい4ちてん） 古井戸後遺跡(第4地点)	いんざいしひらかあざこいどはら958ばん1 印西市平賀字古井戸原958番1	122319	09-154 09-155	35°45′26″ (35.7572)	140°14′47″ (140.2464)	確認調査2020年9月11日 本調査2020年9月28日～2020年10月1日	確認調査34.24㎡/335㎡ 本調査28.65㎡	個人住宅建設
むかいしんでんいせき（だい4ちてん） 向新田遺跡(第4地点)	いんざいしむさいあざむかいしんでん221-1はか 印西市武西字向新田221-1他	122319	09-156	35°47′11″ (35.7864)	140°06′32″ (140.1089)	2021年1月14日～2021年1月20日	362.7㎡/3,100㎡	更地整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さんどやまいせき（だい３ちてん） 三度山遺跡(第3地点)	包蔵地	縄文時代、弥生時代	なし	石製紡錘車(弥生時代～古墳時代)	なし
おおはたいせき（だい6ちてん） 大畑遺跡(第6地点)	包蔵地	縄文時代	なし	なし	なし
あんようじいせき 安養寺遺跡	包蔵地	縄文時代、近世	住居跡3軒（縄文時代）、溝状遺構11条、土坑1基（近世）	縄文土器（加曽利E田式・Ⅳ式・堀之内1式）	今回が初の調査。縄文時代中期の集落が存在することが判明。
こいどうしろいせき（だい4ちてん） 古井戸後遺跡(第4地点)	包蔵地	古墳時代後期	住居跡1軒（確認調査2軒）	須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕・小型甕	周辺調査では8世紀が主体だが、6世紀後半～7世紀初頭の住居跡が新たに検出。
むかいしんでんいせき（だい4ちてん） 向新田遺跡(第4地点)	包蔵地	縄文時代早期、弥生時代後期、平安時代	住居跡3軒（平安時代）	縄文土器(早期条痕文)、弥生土器(後期)、須恵器高台付坏・瓶類・土師器坏・甕(平安時代)	9世紀中葉～後葉の集落が存在することが判明。

令和２年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

令和４年３月14日　印刷
令和４年３月18日　発行

編　　集　公益財団法人印旛郡市文化財センター
千葉県佐倉市春路１丁目１番地４
発　　行　印西市教育委員会
千葉県印西市大森2364－２
印　　刷　株式会社 エリート情報社［印刷出版局］
千葉県成田市東和田415－10